



借
書

初
の
梅
し
中
方
竟
千
梅



隻爐輪 卷之三

方竟千梅選

七月



一乞巧奠

七日

星祭

子カラ糸
庭ノ立琴

乞巧奠トハ人ニ其業

巧タクミナランコトヲ乞コヒ願フ意シ其中ニ女子織縫ヲ
ワサニタクミナラン事ヲ織オリ女メ星ニ願フガ始シ依テ
五色ノ糸ヲ竿ニツケテ手向ムカラ子カヒノ糸ト云 詩
竹竿頭上ニ願ノリ糸ヲト作ル是レ是レ次ニハ壽福ヲ
願ヒ才能ヲ乞フ何ニテモ唯一ツヲ乞フヘシ兼求ムハ
不得ト或書ニ記セリ 庭ノ立琴ト云ハ禁庭ノ
乞巧シ七月七日藏人御調度ヲ掃ハラ拭イ夜ニ入

一送火施火

活法ノ書ニ鹿カ谷ノ大文字松カ崎ノ

册法ト記セルハ是上古ヨリ毎七月十六日ノ夜浴外ノ山寺ニテ盆會ノ施火ヲ焚行フラ云し山ノ羊腹ヲ文字ノ形或ハ船ナントノ形ニ穿チ其縁ニハ石垣ヲ構火ノ外ニ分散セサルヤウニ拵エ置テ其窠穴ニ薪ヲ詰コミ暮前火ヲ燃付レハ暮ラ後穴中ニ火満時其文字其物ノ形皓然ト了サヤカニ京中ニミユ其取、則鹿カ谷ノ大文字松カ崎ノ册法市原山ノハノ字加茂山ノ釣船西山ノ鳥居鳴滝山ノ一ノ字凡浴外東西北方ノ山々皆焚之ラ其中ニ鹿カ谷ノ大文字甚タ夥シ大ノ一字横ノ一畫長四十間左点ノ一畫八十間右点

六十八間シト古記ニシルセリ

一水カケ州

鼠尾州ミソハキ一名鳥州信水カケ州ト云ルト

州史ニ出セリ按ルニ孟蘭盆聖具棚ニ用之ラ水ヲソク故ニ名トス別意ナレ其花穂長クテ以テ水ヲ濯ニ便アリ又稻ニモ水カケ州ノ名アトモ此ニ盆會ノ巫ニ出セルモノハミソハキニ云凡ル誰モタ、今日ヤ折ラシ年毎ニ水カケ州ノ露ノミク

一夏解州

夏中ヲ行ヒハタス僧何ニテチ菜州ヲ

糸ニテ結ヒ且越エ送ルヲ云しヲタニキニ水葵ヲツカ子テ送ルト云ル出所イブカシ

一新綿 ニイ 十六日 活法ノ書ニ貢物シト記ス年中行事
不載 ル コトシ綿ハ今年ノ登綿 カイク ナルヘシ

一盒ノツト入 十六日 勢州山田ニアルコトシト記セリ
諸国年中行事ト云書アリ此事ヲ不載昔
アリテ今絶タルコトカ

一御靈ノ御出 十八日 上御靈下御靈西社同神シ
一條寺町ニ御旅所有テ此日神輿ヲ出ス然ソ
八月十八日御祭禮迄御旅居シ御靈祭神ハ所
早良ノ親王 光仁ノ皇子 伊豫親王 御良ノ皇子 藤ノ大夫人 伊豫ノ母公
吉備公 橘ノ逸勢 ナリ 文屋宮田丸 甘藤原廣嗣

火雷神 是御靈ハ天明神ト号ス此祭禮ト祇
園會ハ皇都ニテノ大祭シ

一鷹鳥ヲ祭ル 處暑ノ候七月ノ中禮記月令ニ出

一逆ノ峰入 聖護院三寔院ノ御門主一世ニ一度ヒツ
吉野ノ真金峯山ニ登山シ玉フ日本宗派ノ山伏
属 ス 之ニ春有ラ順ノ峯ト云秋アルヲ逆ノ峯入ト云

一相撲 コレヲ秋季トシテ書ニ記セルモノハ七月禁庭
敷覽ノ相撲ヨリ起ルシ神龜三年始テ諸国
ヨリ相撲ヲ召ス上卿勅ヲ奉テ ウケテ 国ニエ使ヲ下ス

是ヲ万葉ニ相撲使ト云リ廿六日主上仁壽殿ニ
出御相撲ノ者犢鼻禪ノウヘニ唐衣ヲ着テ袴
ヲ着テ勝負スコレヲ内取ト云 廿八日南殿ニ出
御王卿群參ス大將相撲ノ奏アリ都合十七番
勝ノ方乱声ス是ヲ召合ト云し又廿九日ヲ抜
出ト云テ昨日勝タル相撲ハカリ令取之ヲ
相撲ト云モノ寛平七年ニ唯一度アリト云ニ
以上公事根源ニ出

一 三ヶ山祭 廿七日 信州諏訪郡 御射山 此祭ニスギ
穗ニテ假屋ヲイクツモ作ル 則ホコラ小社ニ是ヲ穗屋
云フ 信濃ニ 旅立ス人ニ 旅ニ寐ハ穗屋ノ芒スギヤ足ナリシ

是千律師ノ句し 又三ヶ山狩ト云ハ此祭ニ小
鳥ヲ狩テ 神贄ニ備フルヲ云
尾花夫木フク穗屋ノアツリノ一村ニレハレ里アル秋ノ御射山

一 楸 ヒサキ ヒサキハ梓アツキし 梧桐ノ類ニシテ葉少小ク秋ニ至
葉ハヤク落ツ 山木し 甚タ大木有テ 琴瑟ニ作ル
唐土ニテハ書ヲ印ス板ニ用ユ本邦櫻多キ故ニ易ツ之トソ

一 櫨 ハジ 漆ノ類ニシテ葉如柳滑く元山木今世採ト子ニノ
專ラ蠟燭ニ作ル依テ多ク平原ノ地ニ植テ利トス
或ハ木ヲ煎クノ 漆ム衣フ 色黄し 本叶ニ黄櫨トアル
モノ是し 秋ニ至テ 早ク紅葉ス

新古今
ウツラ 鳴斤野ニタテル 榼紅葉チリ又ハカリニ秋風ソ吹

一 夕顔ノ實 是ヲ秋ニ出セルニツイテ論有リ夕顔ハ花

アル中ニ實ヲ結フ夕顔ノ實ハ則瓢フクヘシフクヘハ

瓢フクヘ草シ六月ノ実ニ瓢フクヘ草又千瓢フクヘムクト迄書

ニ出セリ然ルヲ夕貝ノ實ト爰ニ記セルモノハ瓢ノ

中ノ子ナルヘント云論アリサレトモ八月ニ既ニ種瓢ト

云モノアレハソレニモ非ス実詮同物ナレトモ瓢フクヘ草ト云

時ハ六月フクヘト云時ハ秋フクヘトモニ夕顔ノ實シ

夕貝ヤ秋ハイロクノフクヘ哉 論ニ不及此句

ヲ證トヘレニ三才圖會以文字ニ其形ヲ分ツ 匏フクヘ瓠フクヘ

瓠フクヘナカクハ 懸瓠フクヘナカキ柄 蒲盧フクヘ百ナリ 壺瓠フクヘ大ハラニテ 首アルモノ

壺盧フクヘナカフヘハ大腹ニモノ 是ヲ信ユウガウト云フ 如此數種アルモノ

ナレハ夏秋ト混スルモ科ナラス

一 旋覆花フクヘ 葉似柀ニ花黄シ野生ノモノハ單葉シ人

家ニ植翫フモノ花大ク數花攢フクヘ咲可愛

一 狗尾草フクヘ 秋作穗フクヘ則狗子ノ尾ニ似タリ粟ノ穗ノ如シ

エノコヤシノレト種ノ有モノヲアヤノナルトハ誰カ云ケン

俗傳フ阿波国鳴門ノ沖不例鳴動シテ不止和泉

式部此歌ヲ詠シテト、ムト云ニ

一 萩フクヘ 如葭ノ中州空アリ依テヲギヨント云其葉夏

秋盛ニ冬枯ル山野海辺ニモアリ庭院ニ植テ風ニ
サ、ヤカナルヲ賞ス

後撰 秋風ノ吹ニツケテモトハヌ哉 荻ノ葉ナラハ音ハシテモシ

中勢

一 茶花

ヲトキノハチ ヲトコヘシ又 女郎花ハ黄シ白花ノモノヲトコヘシ
ナリ 本竹ニ載ル 敗醬 蕪茶カ 説ハ黄花シ時珍カ
説ハ白花シ本邦ニモ黄白ニ色有ラ女郎花ヲト
コヘシト云フ 其根 敗醬ノ臭ト云モノ能合ヘリトシ
然ルニ三才圖會ニ辨スル 所敗醬ハ 鋸竹一名羽衣シ
此竹花白ク花葉根トモニ敗醬ノ臭甚スト云ニ
但レ俳諧ニハ漢名沙汰ハイラス文字ハ通俗ノ字ヲ
以レ只其咲開ク節ヲ用トスヘシシカレシヲタニキニ

オホ 榭ノ花ト云字ハ不解 榭ノ字ハクヌキ或ハカシワ
訓ストチノ訓 不審シソラリ非ナラン 菅家ノ新撰
万葉ニモ茶花ヲトキシトコヘシトマレハ茶花ノ文字ヲ可用

一 相撲竹

花ナリ穂シ其穂ノ末ヲ錢 緞ノコトク結
テ其結目ヘ両竹ヲ相懸引テ勝負シ兒童是
ヲ翫トス其穂ハ賞スル所ナシ 相撲ノ名ニ付キテ
秋季トスルモノナラン

一 仙翁花

剪紅羅 剪緋花 剪秋羅トモ云シ花ノ形
刻ニ有テ小刀或ハ鋏ヲ以テ剪ナセルカトシ信ニセン
ト云シ 秋深紅ノ花ヲ開ク種類數品アリ 松本

セン小倉センフレセンフレク口 眼皮ハ一類異種ナリ
ガニヒフレク口ハ三四月五六月モ咲依テ剪春羅ト
モ云シ 捻テ此花和種シ昔嵯峨清凉寺 北ニ
寺アリ仙翁寺ト号ス其寺絶テ其寺跡ニ珍花
生ス時ノ人仙翁花ト名ク則剪羅紅ナリ又紅
梅ナトモ云是シ

一 才切^{ヲト}ナ 葉ハ常木ニ似テ西ニ相對ス尤枝極アリ
葉ヲモンテ其汁暫クケハ紫色ト成繪ノ具ノ生^{ヒキ}
臘^{ヒシ}ト云モノ此ナノ汁ヲ綿ニ浸セルモノシ唐ヨリ
来ル是シト云コト本邦ニテ漸近年知ルトソ七月
小黄花ヲ用ク 單ニシテ五瓣シ活法ノ書ニ是シ

藥師ナトモ云リ 大和本ナ其外ノナ史ニ藥師ナノ
名目ハ三エス才切ナト云ハ相傳フ昔花山院ノ朝
鷹飼晴頼ト云者其業ニ精^{シキ}コト如神ノ鷹傷^{キス}ノ
蒙^{カズル}コトアレハ一ナヲモミラ 貼^{ツクル}之ヲ 忽愈^ユ時ノ鷹
匠コレヲ乞イ向ヘトモ堅ク 秘シテ云ハズ家ナアリ竊^{ヒソカニ}
淺^ス之ヲ 晴頼怒^{イカリ}ニタエス其才ヲ忽切殺ス是ヨリ
其名アリトソ且此ナ金瘡折傷一切ノ無名
腫ニ葉ヲモンテ貼^{ツクル}ニ神効アリト云ニ

一 觀音ナ 花肆^ハニアルモノ葉蘭ニ似テ少狭ク短
石菖^ニ似テシノキナレ六七月莖ヲ抽テ小花ヲア
ハレ穂ヲナス淡紫^{ウス}其蒼^{ツホミ}サキ可愛然^ルニ大和

本竹ニハ觀音竹無花無穗ト云リ京師ノ信申元
日以莖ヲ以テ蓮ノ飯ヲ縛ル觀音竹ノ名義ニヨルカト云ニ

一 翁竹 二種アリ一種ハ是界竹一種ハ大葉ノ麥

門冬トモト名ニ白頭翁ト名ク爰ニ記セシモノハ則
大葉ノ麥門冬トモト名ク春生ル苗ヲ時其葉白髮ノ如
依テ名トス其葉ニカハラハ春季ナルヘキモノニ其
葉長スルニ至テ青色ト成ル其秋淡紫ノ小花ヲ
開ク愛スヘキホトノ花ニアラス

一 曼珠沙花 本名石蒜ニラ彼岸花ト云曼珠沙花トハ

梵語ナルヨレ法華經ニ摩訶曼珠沙花ト説リトソ
山野墳墓ノ邊ニ多生ス依テ倍死人花ト云紀列ヨリ
来ル蜜柑ノ籠ノ中ニ用イ藉ニクモノ則此葉ト紀列ハ
暖地ナル故ニ此州甚タ多シ

一 鬱ウコン金ノ花 本州ニ出セル鬱金香本邦藥園有葉

麥門冬ニ似テ紫碧ノ花形チ芙蓉ノ如シ又深物ニ
用ルウコント云モノ葉芭蕉ニ似テ小シ白花ヲ
ナス藥園ニアルモノ花可愛

一 灸ヤイト花 嫩ヤロカナル蔓竹小白花ヲ開ク内微紅シ兒童

其花ヲ取り唾ニテシメシ莖付ノ方ヲ上ニシテ手足
或ハ頰ニ貼ツルニサナカラ灸ノ如シ依テ名トス

一 益母草 猪麻 倍目ハジキト云 莖ハ胡麻ニ似テ葉ハ

麻ノコトシ其葉面ニ相對シテ一層ハ東西一層ハ

南北ト更ニ十文字シ七月紅紫ノ小花ヲ開ク又

微白ノモノアリ本州ニハ花四五月ト記ス土地ノ違イ

ナルヘシ又夏至ノ後即枯ル故ニ夏枯草ト云ト記シ名

トモ夏枯レス土地ノ変カ種ノ異カ漢和一ナラ

サルコト是ニ限ラスマ、アリ

一 槐ノ花 ^{ニシユ} 六月半ヨリ七月盛ニ黄花ヲ開ク

其未開ノ時 形チ 蕒ナル米粒ノ如シ本州四

五月花ヲナスト記セリ是亦漢和土地

ノ変シ

一 苘麻 ^{トウゴ} 和名 唐苘 ^{カラエ} 又カラカシハ葉ハ大麻ノ如ク

甚タ大シ夏秋ノ間花穂ヲ抽テ色黄シ高サ

丈余ニ及ラ實ハ大毒アリトソ

一 室ノハヤ早稻 ヲタニキニ ^{ヨクテ} 晚稻ノ中ニ早ク 實ヲ云

シト記セリ是御傘ノヨリ筒ヲ直ニ記出タルニ

御傘ニ曰 室ノハヤ早稻 知レヌ事シ名亦ニハアラ

サルヘシ 晚稻ノ種ヲ浸ス灰ヲ室ト云フ然ニ室

ノハヤ早稻ト古歌ニ讀入タルニ依テ知レヌ事トノ

云シ 晚稻ノ中ニ早ク 實ヲ云フカ上中下 祇

中後ナド三段ニ立ル物ニモ一段ノ上ニ又初中

後有ルシ 定テ 稻ニモ 左様ノ分チ有ルニヤ

田夫ニ委ク尋ヌヘキ事ト云ニ、予畿内江東
ニテ亦、功アル農家ニ尋ル之ヲ、ウセ揔シテ早稻ウセ晚稻
ノ種トモニ春一集ニ浸ヒマス其池ヲ室ト云シ、麴モヤヲ
萌モヤス取トテ室ト云フ土室シ米種ヲ萌ス取ナルニ
ヨツテ室ト云則水室シ是ヲ種室トモ云フ今
按ルニ江東辺ニテ人家ノ軒近キ水辺ヲ夕十池ト
云イ習ハシタルモ種タチ池ノ通音ナルコト明カニ知レタリ
凡ソコノ種室ヲ構エ持ツハ農家ノ故實ニシテ
大和河内江湖辺ノ古風アル農家皆居屋鋪
ノ内至テ日向ヒナノ地ニソレクニ淺水ノ池ヲ構エ
能ク暖氣ヲウクルヤウニシツラヒ春ニ至テ米種ヲ
浸ス是ヲ室ト云シ既ニ御傘ニ晚稻ノ種

浸ス亦ヲ室ト云ト迄ハ記サレタレトモ令サシセン穿サク
ト、カスシテ田夫ニ尋ヌヘキ事ト書シカレシ
是貞徳ハ京師ノ好士ニシテ民家ニ遠キ人ナルニ
依テシ室ノハヤ早稻ト云ハ其種ヲ浸シタル室
池ヲ則田ニ榕エテ五月ニ早稻ノ苗ヲ植ル外
地面ヨリ各別ニ早ク成長シテ實ミ是米種ヲ浸シ
置タル精氣地ニ在ツテ甚地暖アタナル故ニ成長實
トモニ至テ早シ是ヲ則室ノハヤ早稻ト云シ凡
早稻種數品アリ白川早稻伊勢早稻カク葛飾
早稻ハ万葉ノ歌ニモ讀リ其外七十日早稻ナント
云アリ件ノ室ノアト地又ハ至極ノ暖地ニ植ウ之ヲ
マサシク七十日程ニテ苾取ヤウニ出イ来ケルシ至テ早ク

珍シキ故ニ其穗或ハ米ヲ禁庭及領主ニモ献セ
シニ依テ歌ニモ讀ミレタリトナン是等ノ分ナイカ
ニモ書籍ノウエニテハ知レカタキ事シ功有ル農
家ノ口談如是ノ室ノハヤ早稻決^ス之^ニ

万葉集葛飾^{カクシ}早稻ノ歌 葛飾ハ下総ノ国郡号ニ名^ノ悉^シ

鳩鳥ノカツシカ早稻ヲ贅^{ニエ}ストモ悲シキ人ヲ外ニ立^テメヤモ

又東園ニテ種室ノコトヲ尋子ミルニ農家其故實
傳ハラスシテ流^レ川或ハ桶ナントニ米種ヲ浸^レ

定數ノ日限ヲ經^ルトイヘドモ其種萌出カタキニヨツテ
ヤカテ引上コレヲ屋内ニ取入菰^{コモ}筵^シヲ多ク覆^ヒ六

七月ニシテ漸ク萌^ルヅ則苗代ニシロス依テ其菰
筵ヲ覆^{ヘル}ヲ室ニ入^ルト云トソ然レハ東園辺

土ハ菰筵室^ニシテ畿内江東ノ如^キシツラヒタル
室地ナレサアレハ東園辺土ノ地ニハ室ノハヤ早

稻ト云モノハ一向ナク其名モ知ラヌ道理^シ
如^キ是ノ事故ニ大方ニテハ中ニ知^レカタキコト^シ

貞徳翁ノ御傘ニ室ノハヤ早稻知^レヌ事^シト
記^シヲカレタルニ聞^ヒ怖^シテ世ニ連^テ俳ノ宗匠コレ

ヲ僉議スル人ナク二百年來^レシレヌコトニシテ
置ケルモ残多^シ予至愚短才ハ云ニタラサレトモ

年来俳事ノ深切ヲ以テ今コレヲ尋正セリ猶
此ウエニモ疑^シト思^フハシ俳士予カ如キ深切アラハ

古實傳リタル農家ニ尋求テ疑^ヲ可^ク決^ス喻^ス
ノレ此書前記ニ違フコトアリトモ室ノハヤ早稻ノ

来由明白セハ是ヲ予カ幸ナラン

一 冷麥 冷ノ字ニツキテ秋ニ出ス非シ蕉門復ノ景物シ

一 秋ノ螢 隻ヲソク生シタル螢ノ夕ニク七月迄モ

飛カフヲ云シ残ル螢ト混スヘカラス残ル螢ハ
ヤハリ復シ螢ハ五月暫ノ内ノモノニシテ残ル
云ハ六月エ残ル意シ依テ復シ句ニ結フニ此両
様ヲ考エテ可得ニ其意ヲ

一 螢 キリクス 仲秋ヨリ暮秋ニ至十月迄モ人家ノ内外

夜専ラ鳴ク其声寂サビシツリサセ又カタサセスソ

サセト云カ如シキリクス 鳴クヤ霜夜ノ狭筵ニト詠ヨシ源氏ニ
壁ノ中ノ螢サヘマドクニ聞ナラ習玉ヘル御耳ニト云
古今集ニ秋風ニホコロヒヌラレ藤袴ツリサセ
テフキリクス鳴クト詠ルモノ是シ唐詩ニモ多ク詠
之ヲ皆其聲ノ寂サビシキヲ感レテシ其形カウロキ竈馬ニ
似テ頭ハ切タルカ如ク尖トカリナレ正黒ニシテ光澤ノヤアル
小虫シ尤脚鬚長レ蟋蟀促織トコ嬾婦虫トコ螢
皆皆キリクスト訓ス然ルニ三才圖會ニ是等ノ
文字ヲ皆カラウロキト訓メ蒹葭ノ二字ヲキリ
キリスト訓レケリ詩經ニ五月斯ナク蠶動股ヲ
六月蒹葭振羽ヲ十月蟋蟀入床下ニ等ノ註ニ
朱子曰斯キリクス蟋蟀トコ一物ニシテ隨時ニ

変化ノ異名ヲト云ミ本邦イナゴハタツリキリク
スト称スルモノ皆別物ニシテ一虫ニアラス尤
同類也異ナル故ニ文字ノ訓モ書ニ混ス俳
諧ニハソレヲ改ムニハ不及文字ハ通俗ノ字ヲ
用ユヘレ其形ト声ヲ以左ニ辨ス

一松虫 原野ノ叢中ニアリ中元ノ頃ヨリ鳴初テ仲
秋末ニ至ル其声チンチリシト云如ク金鉦ヲ打カ如ク夜
声殊ニスメリ其形イナゴハタツリノ類トハ異ニノ西瓜ノタ子
ヲミル如クウスク長四五分斗ノ虫シ柿色ヲ長キ脚髻アリ

一鈴虫 松虫ト同時ニ鳴テ暮秋ニ至ル其声リリ
リ、リ、ント云金鈴ヲ轉カ如ク是又夜声甚清
亮シ形ハ松虫ニ似テ淡黒ノ虫ノ大ナルモノシ尻
左右ニ毛アリカ長キ脚髻アリ凡此二虫其声
諸虫ニ紛ルモノナリ世人能ク知レルモノシ其形繁
花ノ地ニハ虫賣買者有テ人能ク見知リ田舎ニ
テハ声ハ阜散ニ聞クナレトモ其形ヲ見ヌ人多ク
依テ記之ヲ又大和本州ニ曰松虫鈴虫ノ二虫唐土
ニハナシトミエテ中華ノ書ニテ未見之ヲト云

一ハタツリ 六月ノ中ヨリ鳴初テ七月半頃ニテ野
叢ノ中昼盛ニ鳴ク其声ギイ、スト云カ如ク一二声
ノ内ニチヨント舌打ス倍是ヲキリクト云テ小筆電ニ入

市ニ賣テ小兒ノ翫トス其形イナゴニ似テ大じ是
ハタフリしギイ、ト云フハ機蹠ノ音チヨシハ成
打ッ音し又ギストモ云リ續猿蓑其ノ附合ニ
研ヲ這^{ハライハラ}棘ノ中ノギスノ声：云句アリ 蒲雞
絡線^{ラクセン} 絡緯^{ラクヰ}ノ字ヲ書クハタフリト訓ス
声ノアヤ野辺ノ錦ノ色クシハタフル虫ノシダリ顔ナル

一クダミキ 江東ノ俗スイト、云其声スツイトント云カ如
イナゴニ似テ小じ色純^{モウハラ}青シ尻ニ鈕アルアリ又ナキ
モノ有雌雄ノ異し中元ノ時候夜盛ニ鳴ク其
響紡車^{フウマ}ヲ捲ガ如シ 關東ノ方言馬追ト云是又
蒲雞ノ種類ニシテ大小声ノアヤサツ異ナルモノ也

一稻ツキ 一名子ギ 關東ノ方言ハツタ 至テ青キ虫形
脚トモニ長ク首^{カシラ}口尖^{トカリ} 首ノ形サナカラ 称宜ノ烏帽
子ツ着タルカ如シ 足ツ持テサクレハ能叩^{スカヅク}首 稻ヲ
ツツカ如シ 但シ声ナシ 江東ノ兒童是ヲハタフリト云
非し書シ、蟻^{アリ}ノ字ヲ以テ子キ稻ツキト訓ス又
蟻^{アリ}蟻^{アリ}ナントノ字イ子ツキコニロト訓ス皆
同類サ異し

一イト、カウロキ 一物二名也 筑紫ニテ井、ゴト云
其形^{キリク}蟻ノ如シテ首^{カシラトカリ}尖テスルトも足^{アシ}鬚甚
長シ 竈ノ辺ニ穴居ス依テ竈馬ノ字イト、
カウロキト訓ス暮秋ノ深夜聲高クスメリ

右虫ノ種類辨スル所昔ヨリ和信ノ呼来ル名
其声形ヲ詩賦古歌等ニ考合必然ノモノ記
之ヲ三才圖會ノ説不合コト多シ

一 イボシリ 蝻カニキリ 蝻ハイボシリハイボムシリノ略シ其性
甚タ 憤怒イカル 胸ノ赤キハ憤怒ノ焰火也以斧ツ 向
隆車ニト云モ則憤怒シ此虫卵生シ

一 常山ノ虫クサキ 此虫五疳ノ母藥ニシテ秋ノ半
採トル之ヲ 東武ニ尤多クコレヲ市ニ賣モノ
多シクサキ其苗ヲ蜀漆ト云ツメニキ
濁漆ト書誤レリ

一 虫撰 治法ノ書ニ七月ニ出ス九月シ禁庭ニ有
コトニテ公事根源ニ載ス又蓑虫トハカリハ雜ト
記セリ蓑虫トハカリモ秋勿論シ

一 鷹ノ山別 山鷹ノ巢立ツ云シ此假名付クタニキ不宜

一 鳥屋出ノ鷹 其毛ヲカユル内 鳥屋ニ竹ノケルヲ
秋ニナリ鳥屋ヨリ出シテ手ニ居ユツクルヲ云シ

一 初鳥狩ハツトカリ 鳥屋出ノ鷹ヲ居エツケテ 初テ狩
スルヲ云

山石瀬野ニ秋サ萩シノキ駒テテ初ハツトカリ鳥狩サヘセテヤ止ニナシ

一 鱈シラ 鱈細カニ 尾小ニシテ 鱈ニ比ス 味不美 下品也 三四尺アルモノ 九州浦ニシテ多ク 取之ヲ 鱈トシテ 京大坂ニ来 販ヒサク 市ニ 秋冬 畿内 諸国 田家ノ 釘サモトス 此魚 東列ニ 且テ ナレ 相傳フ 中華ノモノニシテ 四五月 唐船 入津ノ時 船ニ付 群来ル 依テ 九列ニ 多クシテ 取之ヲ ト云ニ

八月

一 八朔 タノムノ節 向ト云 此日ノ儀式 上古ハナシトシ 人皇ハ十七代 後嵯峨ノ院 同ハ十八代 後深州ノ院ノ 御代ノ頃ヨリ 只世俗ノ風儀ニシテ 此日 早稻ノ新ヨ子ヲ 折敷ヲキ 或ハ土器ナトニ 入テ 人ノモトエ 送リケルヨリ 始レリトソ 故ニ 田ノ實ノ節 供シ 三トムト 通音シ 今世堂上武家トセニ 此日ノ 祝儀 甚タ 嚴重ニ 成ヌ 古ハ 行事ノ 正禮ト云コトニテ ハナカリシト 公事 根源ニ 三エタリ

一 星月夜 闇ニ 星ノ多クテ 明キ 夜ヲ云シ 只 秋季

ナリ月ノコトニハアラス

一 夕月日 ユウツクイト唱フ 朝月日モ同前 賞翫ノ月シ
ユウツクイ双ヒノ因トヨメルハ月ト日ト双フト云詞シ
又歌書ニ附ノ字用イタル歌タマク有リソレハ歌
意月ニアラサルカ其歌ニテ詮義スヘシ又ノボリ
月クタリ月ト云ハ上絃下絃ノ月ヲ云フシ

一 菅大臣祭 十六日 佛光寺通新町ノ西ニ神宮アリ
是菅公ノ屋敷跡シ 拾苾抄ニ曰流サレ玉フ時
東風吹カハ 匂ヲコセヨ梅ノ花主ナシトテ春ヲ忘レソ
ト詠玉シ 第宅ノ跡シト云ニ 此歌拾遺集ニ入

一 駒牽 駒迎 信濃甲斐武藏上野等ノ牧ノ駒ヲ
大内ニ引 献ルヲ云 御勅使アツテ院ノ御所 春宮
エモコレヲマイラサセ玉フ 此勅使ヲ牽ワケノ使ト云
其国ニノ駒ヲ引ワケラルノ名シトシ 十六日 信列
相原ノ牧 六十足 十七日 甲列穗坂ノ牧 廿足 廿日 武列
小野ノ牧 四十足 廿三日 信列望月ノ牧 廿足 廿八日 上
野列ノ駒 五十足 其外 秩父立野 諸国ノ御牧ヨリ
牽^レ之^ヲ 上古ノ事ニシテ 今ハナレ 今世 毎八月 御馬
御覽ト云日アリテ 江戸ヨリ 献セレメ玉フニ足
是上古ノ遺風シト云ニ

一 死活杖ノ祭 和漢三才圖會ニ曰 褐^{カチ}速^ハノ社トテ 猪ノ

熊三條ノ南ニアリ上古ハ刑部省 牢獄屋ニ此邊ニ
アツテ死刑ノ者ノ夕メニ社ヲ建其鬼ヲ祀コレヲ
死杖^{モツエ}祭ト云又活速ノ祭ト名ツク中古ニ至僧家
千本ノ引接寺及壬生ノ地藏堂ニツイテ大念佛會ヲ
行フ是刑死ノ者ノ為ニ此禡速ノ祭ノ絶ルヲ經シト云

一 菩薩祭 ^{ホサ} 是海神祭也ボサトハ天妃菩薩ナリ
姥媽神ト称ス海濱ノ福^{サイ}ヲ守ル神也

一 龍田姫 秋ノ氣ヲ主ル造化ノ神也春ノ佐保姫ト同
意也神祇ニアラス非名所ニ万葉ニ只造化ノ神ナレトテ
春ノ哥ニモヨメリ依テ連ニハ春秋ニ用ユトソ俳ニハ春ニ不用

一 宇治ノ花園 是昔宇治ノ大臣ノ第宅ノ花園ヲ云フ
昔ミレ人ノ泪ヤ露ナラン世ヲウチ山ノ秋ノ花園 慈田大僧正

一 花紫 紫艸也春若紫ノ取ニ委記 御傘ニ紫ノ花
秋也色深キト云句モ秋シト云リ

^{古今}ムラサキノ一モトユエニ武藏野ノ艸ハミナカラ哀トソミル
紫ノ色コキ時ハ目モ遙ニ野ナル艸木ソ別レサリケ
是二首トモニ秋ノ歌也然ニ三才圖會ニ春ニ
月白紫花ヲ閑クト記セルモノ不審然レトモ
俳諧ニハ其センサノハイラス花紫ハ秋若紫ハ
春是昔ヨリ用イ来ル取ニシテ春秋ノ景物也

一 檀特花 リン トククハ

高三四尺ノ草 葉ハ芭蕉ニ似テ小シ長一
尺ハカリ 五六月抽莖^ツ 莖頭ニ花ヲナス 數花段ニ
九月ニ至ル 花色鮮紅シ可愛子ハ甚^タ 硬^{カク}ノ作念珠^ル

一 鴨踞草 ツキクサ

露草トモチクサトモ云 青花シ 取ニ湿地ニ
生ス 秋七八月花ヲ開ク ウツシ花ト云 此花^ツノ紙ニ
ウツシ繪ノ具トス 江列勢列多ク出之^ツ 又深衣^ム
鈍色ト云 是^シ至テ醒^サ易^ヤカ^キ色^シ
世ノ中ノ人ノ心ハツキ草ノウツロヒヤスキ色ニソアリケル

一 野菊

野原ニ自然ト生スル 菊ヲ云シ 花葉トモニ菊ニ
似テ小シ 褐紫^{ウスシロムラサキ}ノ花多シ 稀ニ黄花ノモノアリトシ 是上
古ヨリ本邦ニ有ル 菊^シハ毒アリ 不可食^ツト云リ 今人
家ニ植テ翫^フモノハ唐土ヨリ来^ル 上古ハ野菊ノ外ナシ

一 鳳仙花

和名ツニ紅^{シキ} 六七月ヨリ秋ノ末ニ至迄花アリ
或ハ紅又紅白相交^ルモノ 淡紫ノモノ 碧^{ミドリ}ナルモノ
黄ナルモノアリ 是又小毒アリト云ニ 此草ニモ金
鳳花ノ名アリ 真ノ金鳳花ハ兔ノ田^{カラレ}子^シ 三月
刈ニ記ス 温スヘカラス

一 金剛草 コベツナキ

本草狼^イ糸草^{コベツナキ}ト訓ス 其根獸ノ牙
似テ色黒シ 莖枝葉萩ニ似タリ 七八月花ヲ開ク 花モ
大略^サ萩ニ似タリ 山野ニ生ス 其根甚^タ 硬^{カク}強^シ 故ニ

菊人駒ヲ繫ク依テ名トス金剛州ノ文字其根ノ
強キヨリ出タルヘシ倍字書ニミエタリ又大和本州ニ出
セル狼牙州ハクサグスリ大根菜ト訓レテ別物也其
葉ノ圖大根ニ似タリ

女郎花多カル野辺ノコマツナキ落ケン人ヤ引ト、メニシ

美家卿

一 縷紅 ^{ルコウ} 莖葉トモニ細ク如シ藻ノ如シ莖ヨリ蔓ヲ出シ八月
小紅花ヲ開ク形丁子ニ似テ長サ六七分、花シ可愛

一 鴈来紅 ^{カニツカ} 一名老少年ト云葉雞頭シ無花九月ニ
至テ其葉鮮紅如花、又一種六月ニ葉紅ナルモノ
アリ十様錦ト名ツク

一 コナギ 浮菖 ^{ナガサキ} コナキト訓ス一名澤桔梗葉ハ葵ノ形ニ
シテ滑ナルトコロ那岐ニ似タリ夏ノ末ヨリ秋碧花
ヲ開ク花コナキト云シ水州シ是ヲ水葵トシホエタル
輩多シ水葵ハ苔シ花黄シ六月ノ末ニ記ス不可混

一 白英 ^{ヒヨドリジャコウ} 人家ノ垣根ニ自然ニ生ス蔓州シ葉アサカホ
似テ小白花ヲ開キ秋實ヲ結フ秋季トスルモノハ其子
ヲ賞メシ暮秋其子甚紅鶉好テ咏之依テ名トス

一 百夜州 先ッハ菊ノ異名シ
名ニシテフ翁カ庭ノ百夜州花咲テコソ白露ニナレ
是菊ノ哥シ然トモ九月菊ノ下ニ出サスレテ夕夏ニ

ワケ申

七

記セルハ別物シ依テ書クヲ考ルニ藻塩艸ニ露艸ノ異名百夜艸ト云此艸百夜ニ至花咲依テ名ツト記セルモノ則是シ

一 鷄艸 一切ノ園史艸史和名抄等ニ此名アルモノニエス艸花肆ニ尋ルニ不知ラ或繪師ニ尋子侍ル粟ノ異名ト云サモ有ヘキニヤ

一 毛萼花 高キモノ七八尺花ト云ハ穂シ淡赤^{ウスアカシ}葉甚々大クモアルモノ云原野村端ノ湿地ニ多シ

一 菑堀^{フカ子} 苦參引^{ククラ} タウヤク引^{タウヤク} 此三種其花實ニカ、ハラス其根ヲ掘引テ藥種トシ漆艸ニ用ル時節ヲ季トスト見ユ活法ノ書クラニ茶ノ字ヲ用置リ不^ニ宜茶ハ苦菜^{ニカナ}シトツ

一 薑艸^{カリヤス} 一名黃艸 和名枹ニ加木奈ト云リ葉ス、キニ似テ秋穂ヲナス芥テ漆艸ニ用ユ越前多ク出^ス之ヲ

一 生棉ノモ、 木ワタ秋實ヲ結フ桃實ノ如シ則ワタノモト云中秋徐^ク實^ク開ケテ白綿ヲ發スルヲモ、フクト云吹出ス意又躰^{子ル}ノ意シトモニ農言シ

一 八束穗^{ヤツカボ} 長ク大フサナル稻ノ穂シ又八束手^{ヤツカデ}トモ

云し神代卷ニハ握ニ莫莫然甚快也ト云ニ

一 稻筵イナムシロ 是物ヲ干ス筵ニハアラス稻葉ノ平トシテ

筵ヲ敷ケル如クナルヲ云し

一 ソフツ 相傳フ昔玄賓僧都草人形ヲ作テ秋田ノ

中ニ置^テ之^ラ鳥ノ穂ヲ啄^ツ防カレム信鳥威^ト云

後人是ヲ僧都ト名^{ナク}是玄賓僧都ニ始^レハシト云ニ

藻塩州等ニ載タル説モ似^テ之^ニ一決セス或ハヲトカシ

ト云テ田ニ立タル人形^シト云又ヲトカレノ懸繩ナ

ニト書リ蕉門右ノ説皆不用ソフツハ案山子鳥

威^ニアラス田ニ水ヲ添^ル具^シ則添^ル水^シ以^レ板^ツ

拵^{タル}モノ^シ依^テ水^邊秋^シウエ物ニ二句但^シ高^キ

ウエ物ニハ不嫌御傘ニ曰古今集ノ山田モルソフツ

身コソ悲シケレト云哥ヲ相傳ナキ人ハ案山子鳥威

ヲソフツト云ト思ヘリ非^シト云ニ此哥ノ意秋モ杲

行ク頃ニナリテ添^ル水ノ具ノ入用ナク捨散ラサレ

タルヲ玄賓ノ我身ニナソラヘテ秋杲ヌレハ向^テ人^モ

ナレト讀^ルシ蕉門可用^之ト師説

一 色鳥 色^ニノ鳥渡^ルト云コト^シ近來ノ書ニ渡^リ鳥ノ内

鴨^{ヒヨトリ}春川セミ^ニ其^ナト云^ルモノ有蕉門不用^之古

法ノ通ヤハリ秋^シ外^ニ鷄^ハ秋^ニアラス冬^シ是蕉

門ノ活法^シテ^ラツ^キト云ハ啄^{キツ}木^鳥相傳^フ昔

聖德太子守屋ニ戦ヒ勝チ玉テ如祈願ノ四天王寺ヲ
建玉シ時此鳥群来テ寺ヲ啄キ破ル依テ寺啄ト
名ツリ守屋カ怨念鳥ト云ニ

一 鳴ノ羽搔

是元榻ノ端書百端カキト云古事
准シテ鳴ノ羽カキ百羽カキト云リ 鳴ノ羽ノ頰列ニ
重リタルカ彼ノ車ノ榻ニ印レ付タルニ似タルト云ヨリ
哥ニモ詠ナラハシタリトソ榻ノ端書ト云コト深
州ノ少將ト云人有テ小野ノ小町ニ九十九夜通
タルヨリ始ト云コト謡ニ作レリ或古物語ニ景行
天皇ノ御宇ニ男有ケリマヂカキ采ナル女ヲ思ヒ懸テ
九十九夜通テ其夜數ヲ車ノ榻ニキサミ付タリト

云ニ又藻塩州ニハ淳和帝ノ御時藤原ノ鳥糞ト云
人井手ノ左大臣ノ娘ニ百夜通ルコトヲ載タリ
暁ノ鳴ノ羽搔モ、羽カキ君カ来ヌ夜ハ我ソ數カク

一 鷓ノ竹莖

今早贄モズノ州グキト云コト説ニ
アリ則ハヤニエノ事ト云説モ有ハ雲御抄ニシ
ルノ州ト判セラレテ只鷓ノ住野邊ノ州ニ鷓ノカク
ル、ホトノ州莖トソ野邊ニ州茂リテシルヘナキ
目印ノ州有シモ一日二日過テ行ミレハ取シレス
成行クヲ鷓ノ州莖アト絶テナト詠リト云ニ清輔
袋州紙ノ説モ是ニシナシ
春サレハ鷓ノ州莖ニユストモ我ハミヤラン君カアタリヲ

サテ早ニエト云ハ鷓ノ性トシテ必蛙或ハトカケナド
ヲ取テ柵木ノ立枝ニ刺貫キ晒シテ是ヲ鷓ノ
ハヤニエト云人氣疎キ別荘ナトニミ、アリ予親見之ヲ

一 小鷹

凡テ鷹ハ冬ニシテ小鷹ノ分ハ秋シ其種類
多シ刺羽ト云ハ小隼ハヤシ朝鮮ヨリ来ル雀ツミ雀エツ
賊ツミ雄コノリ兄コノリ鷓イタカ雌メ鷓コノリ巢ゴゴノリト
云ハ秋巢ヨリ取ラ云シ鷹鷓坊ト云書日アリ全篇
タカノコトヲ詳ニ解セリ凡テ鷹ハタカノ総名ナ
レトモ別シテハ大タカシ鷓ハ小タカノ総称シトソ
本邦ニハ定家卿ノ鷹ノ詠哥三百六十首アリ
鷹ノコト逐一詳ナルモノシ

一 鷹打

タカヲ細ニテ取ラ云シ取得テ始テ飼ハモノ
ヲアラ鷹ト云ヌコレヲ細掛ノ鷹ト云シ鷹ハ凡テ
人煙ヲ離レタル嶋山ニ生レテ秋高山ヲ凌キ越テ
渡リ来ルモノシ其峰ニ回ワトリヲ置キ大細ヲ竹ニシツ
ラヒカケ羅テ岩陰ニ待イ之ヲ打被カサセテ取之ヲ打ト
云シ近国ニテハ三列ノ伊良イ虞ゴ崎ニテ取ル之ヲ
古翁笈ノ小文ニ曰イラゴ崎骨山ト云ハ鷹打
取シ南海ノ果ニテ鷹ノ始テ渡ル取ト云ヘリ
イラコ鷹哥ニモ讀リケリト思ヘハアハレナル折節
鷹ヒトツ見ツケテ嬉シイラコ崎翁

一 カセギ

スカル鳴リ 日本紀 鹿ヲカセギト云コト取ニ

アリ就中景行天皇ノ巻ニ白鹿シロカセギト訓セリ
又スガルトハ雄鹿ヲ云シ鹿ノ子ヲモ云捻シテ鹿ヲ
カセギスカルト云ハ本名シト藻塩州ニミエタリ
古今スカル鳴秋ノ萩原朝立テ旅行人ライツトカ待タ

一太刀魚 是秋季トスルモノハ泉列播列ノ海濱ニテ八九
月鱈ト同時ニ多ク取之ヲ依テ秋トス他列ニテハ季難用

一カジカ 石班魚シ種類多ク加茂川ニテ極小ナラゴリ
云京師ノ茶人賞翫シテ羨トス臧アララ多ク甚タ美味シ
又一種イレブシ是モ一寸ニ不滿小同加茂川及
江東ノ川ニ多シ江列ノ倍チシコト云イ或チシカガ

ト云フ順ノ和名抄ニ鱈ト出セルモノ是ナルヘシコリ
ヨリサ臧アララスツナク味カロシ又山谷ニ有ルモノ大キサ三
四寸班文有テ形ハゴリ石ブシニ同シ秋ニ至テ夜鳴
其声清亮シ依テ倍河鹿ト名ツクアラリ食ス佳
品シ予昔旅行ニ下野ノ山家ニ宿リ夜中其
聲ヲ聞ニ明朝リモラ夕シ饗食之ヲ
カシカ鳴クヨベノアハレヲ膳ノ先

一江鮭アサノウラ 琵琶湖ノ名産シ大ナルモノ三尺小キハ尺
不滿モノ有リ儼サキカラ鱈魚ノ如シ江鮭トハ則江
湖ノ鮭シ河鱈魚ヨリハサ臧アララ多シ湖水ニテノ
佳品シ秋八月雨水河ニヨリ湖中ニ流入時多ク

川ニ上ル築ヲ構エ或ハ大櫛網ヲ以テ取之ヲ

十列中

六列

九月

一 不堪田ノ奏 七日 諸国田ノ損亡ヲ記シ奏スレハ

ソレクニ租税ヲ免シ玉フコトシ古ハ三分ニノ貢ヲ
免レ玉フコト公事根源ニ載ラレタリ 不堪田トハ
ツクルニ不堪田ト云コ、ロシ

一 桂ノ宮相撲 八日 上桂村下桂村トモニ神祠有拾玖

抄ニ桂ノ御霊ノ宮ト記セリ都下洛外取、御
霊ノ社アリ畿内江東凡テ秋ノ神事ヲサウ
モクト称ス則相撲ノ字シ依テ何レノ神事ニモ
秋ハ相撲有リ 關東ニテハ秋ノ神事ヲ町ト云多ク

立市ラ 市町ノ畧シ

一例幣巾 十一日 伊勢太神宮エ奉ラシメ玉フ例幣使ト

天照太神勢州ニ御鎮座ハ人皇十一代垂仁天皇廿五年大和国笠縫ノ神宮ヨリ移ラセ玉フ今年宝曆二壬申ニ至テ一千七百五十七年ニ及ハセ玉フ此御勅使ハ元正天皇艱老五年九月ニ始テ御使ヲ立サセ玉フテヨリ今ニ至テ一千三十餘年毎年不闕ニ幣帛ヲ献タテマツラシメ玉フ是ヲ例幣使ト云シ

一住吉ノ室ノ市 十三日夜 外市シ此市ニテ買求メタル升ヲ以テ日用ヲ達スル者ハ富家成ト云傳フ故ニ室ノ市ト名ツク

一天王寺一乘會 今ハ十五日イニ十四日シ 大念佛會トソ

一雀蛤ト成 寒露ノ候 九月ノ節シ禮記月令ニ出

一岩倉祭 十五日 北山ノ岩倉村ニアリルテ浴ノ四方ニ岩倉有テ神社アリ 帝都守護シ北ニ岩倉村 東岩倉ハ南禅寺ノ東 西岩倉ハ坂本村ト云ニアリ南岩倉ハ遙ニ河内ニ有ト云ニ

一度會ワタラヒ 新嘗會 伊勢ノ御齋會コサイト云是レ外宮ハ十六日 内宮ハ十七日シ新采ノ御供ヲ献スワサ采ノ御祭ト云此月ハ僧尼モ免サレテ社參スルト

一野ノ宮ノ別^レ 往昔以^ニ皇^サヲ伊勢太神宮ノ齋^{イッキ}

宮ニ立テ玉フ依テ 齋王トモ申スシ人皇十代崇

神天皇ノ皇女豊^{トヨ}鋏^{スキイリヒメ}入姫ノ命^{ミコト}ニ始リ八十二代後

鳥羽院ノ皇女素子内親王ニ至テ此事止^レ今ハ

神官ノ女^{メヌメ}ヲ以テ神仕ニ備フ野ノ宮ト云ハ昔

代^レノ皇女齋王ニキワマリ玉フ時洛外ノ田地ニ

假^リ宮ヲ建ラ^レ先其假宮ニ移リ玉ヒ潔齋數日ヲ

ツトメ玉ヒテ後伊勢エ立セ玉フ其假^リ殿ヲ野ノ宮

ト云イ伊勢エ立玉フ日ヲ野ノ宮ノ別^レト申スシ

今ニ至テ嵯峨ニ尊院ノ南ニ其神社有^リテ黒

木ノ鳥居小柴垣等ノ形^ノアラク^ク残^レリ伊勢

立玉フ前宵御服^{イノモモ}乞^ヒノ御為^ニ參内有^テ直^ニ

夜中ニ群行^シ玉フ^{齊宮ノ伊勢エ敷} 其時主上大極殿

ノ高^{タカ}御座^{ミクラ}ニ出^リ御アツテ御手^{テソカラ} 齋王ノ御髮^ミ

櫛^ハヲカツケ玉フ是ヲ別ノ櫛ト云フ神慮^ニ

合^カセ玉ヒ二度帰京ナキヤウニト有^ル祝事^シトソ

源氏^ノ櫛ノ卷ニ委^シ此御櫛桂ノ木ニテ作^ルトモ

又^ツ黄楊^ゲニテ作^ルニ説^シ長^サハ二寸許ト云^ニ是

ヲ則^ヨ由^コ豆^ヅノ瓜櫛ト云其形瓜ノ形^ニス^{素盞}蓋^蓋鳥

尊ノ稻田媛ニカツケ玉ヒシ因縁ヲ以^テ齋王ニカ

ツケ玉フ別ノ御櫛モユヅノ瓜櫛^ト土御内ノ右府ノ御

記^ニモ^ニエタリ別^レノ櫛秋^ノ夜^ノ分^シユヅノ瓜櫛トハカリハ無^キ

桂川ノ御^ミ稜^キ 是齋宮ノ野ノ宮エ始テ移リ玉フ時モ

名

記

又伊勢エ立玉フ前日モ此河ニテ被_レシ玉フ_レし柵ノ
卷ノ赤月宮ノ伊勢エノ群行ハ九月十七日_レ其
前日此河ニテノ御被_レテ桂ノ御禊_ト申ス_レし

一 婆利女祭 廿日 高辻通室町ノ西ニ社アリ京師ノ
倍ハンジヤウノ宮ト称スハリジヨトハンジヤウト和語近_キ
以テ訛_ルシ婆利女ハ辨天ノ别号_シ古今著聞
ニハ洛西頗_ハ梨女ノ社 稻田姫ヲ祭ルト云_レ

一 旅夷 廿日 洛東建仁寺ノ前ニアリ昔建仁寺ノ
開山千光国師入唐帰朝ノ時海中漂風ニ逢_テ
波中夷ノ像一軀ヲ見_ル取_レ之_ヲ 船中ニ祭ル則

風止_ミ浪静_シ帰洛_ニ建寺_ヲ後側ニ夷ノ社ヲ立_ツ
故_ヲ以テ旅夷ト云_トソ

一 八幡_ノ花_ノ頭 廿日 非正花_ニ神行_シ色_ニノ花_ニ其外
ノ作り物_ヲシテ献_ニ神前_ニ頭番ノ者事_ヲ主_テ
其家ヲ清メ潔齋_シシテ勢_ム之_ヲ 凡テ畿内江東
邊ニ頭_ト名_ツクル神事取_ルニアリ 多賀ノ頭
正月_ニ茶_ノ頭_ニ三月江別金カ森ニアリ 守山ニ
観音ノ頭アリ正月_ニ

一 城南神_ノ祭 廿日 城南寺ノ社_ニ上鳥羽ノ里ニアリ
鳥羽ノ上皇ヲ祭_ル神_ニ此取平安城ノ南西ニアタ_レ

西南ノ離宮ト申スし又山崎ノ八幡ヲモ離宮ノ
八幡ト称ス是ハ往昔弘仁帝人皇五十二代ノ離宮
ノ跡シ故ニ名ヅク嵯峨天皇

一 逆髮祭 廿四日 相坂ノ山上ニ社有依テ坂上ノ神ト
信称セシナラシ祭神不詳野信傳テ延喜カ
三ノ皇女髮逆ニ生フ故ニ逆髮姫ト云蟬丸ノ姉宮
シ其社ト云リ俱ニ非シ當社坂ノ上ニ在テ逆髮
ト語同キヲ以テ附會スルモノシトソ

一 福王神祭 廿八日 西山鳴滝村ニ神祠有福王子
宮ト云シ祭神光孝天皇ノ后妃班子皇后ナリ
宇多ノ天皇ノ母后

一 豺獸祭 ヲハカニケモノ 霜降ノ候九月ノ中シ禮記月令ニ出

一 柞 ハツ 山木シ高キモノ二三丈葉ハ栢ニ似テ秋紅
葉シ冬落ツ城別柞ノ森名取シ且ツ奈良ノ西京
祝園ト云取アリ城別内ニ元ト柞園シ後祝ノ字ニ
改メ祝園ノ神社春日大明神シ此神森皆柞
ノ木ニシテ秋甚紅葉ス他邦ニハ稀ナル木シ

一 檀 マユミ 山木ニシテ大木シ葉ハ槐ニ似テ秋ヨリ紅葉ス
苔ノムス岩カキマユミ色深シ是ヲ嵐ニ知ラセモガナ頭輔

一 正木ノ蔓 カツラ

是深山ニ在テ里近キ取ニ使ノ生セサル物故ニ

其形主ヲ知ルモノ稀シ依テ書ニ説區ニシテ不決

アルハ絡石是シナド云説アリ大キニ非シ絡石ハ石ヨ

纏マツ分際ニシテ蔓ツルサミテ長カラス 秋紅ナラス冬ニ

不散コレ定家蔓カツラシ 古今ノ序ニ正木蔓長ク夕

ハリト云レハ山中ニハヒコル長キ蔓ナルコト明白御筆

ニ俊頼卿ノ目クルレバ逢フ人モナレ正木散ルノ哥ヲ

引テ木トモ州トモ定メカクシ山家ノ者ニ尋タキコトハ

先ツ慥成説ノ出ザル間ハ正木トハカリハ木ニサキノ

蔓ト云時ハ州ニシテ然ルヘキト存スルト云ニ是其生

物ヲ見聞届ケラレサル故ニ貞徳ノ了簡ヲ以テカリ

ハ記ルサレタル者シ予和列及紀ノ路辺遊行スル

度取ミ山間ニ入ル毎ニ如是ノ物有リヤト山人ニ尋

其答ル言葉ニワキテ古哥古書ニ考エ合スルニ

或ル年ノ中秋河内ノ国ノ名取ヲ尋子ニ上カ嶽

南ヲ越テ大和ニ入ル時篠峰ノ麓ノ山路叢林ノ

中ニテ氣テ山人ノ云フ如クナル物ヲ見ル 其葉檀

似テ木ハ藤ノ如ク蔓甚々長ク叢茅ノ中ヲ這高

木ニツタヒ上ルモノ其ト谷取ニ多クアリ 邊ノ樵

人ニコレヲ委リ向フニ此葉暮秋十月ニ至リ甚々紅

葉々其色深紅冬枯落ツト云フ 是古哥ニ往ニ

ヨミ古今ノ序ニ云ル真ノ正木ナルコトヲ知ル 秋

至テ紅葉スル故ニ連俳活法ノ書ニ出シテ秋季

トス哥ニ正木トハカリ詠ルモ正木ノ蔓トヨメルモ

一物し其哥ニヨツテ正木ノカヅラト云イツバケ
ラレヌモ有コトシ

新古今

俊頼

古今

深山ニハアラス降ラシ外山ナル正木ノ蔓色ツキニケリ

新古今

ウツリ行雲ニ嵐ノ声スシ散カ正木ノカツラキノ山

日

松ニハフ正木ノ蔓散ニケリ外山ノ秋ハ風スサフラン

又正木ノ經トモ讀リ則コレヲ經ニヨリテ杣木ヲ

引ト云ニ其長キコトヲ可知

照月ヲ正木ノ經ニヨリカケテアカス忘ル人ヲ較系カン

又人家ノ軒ニ植テサ藩籬トスルモノニ正木ト云モノ

有リ是ハ秋紅葉セス冬散ラスニサ青キノ畧ニテ

ニサキト呼フトソ是犬正木シ連俳ノ書ニ云フ正木ト

温スヘカラス若是俳諧ニ出タリトモ無季ト心得ヘシ

是ニモ女木男木アリテ葉ノ色嫩ニノ團ハ玉ツバキ

ト称ス其葉略ツバキニモ似タル故ノ倍称シサテ

ツタニキニ書ル梶ノ字不解按ルニ是梶ノ字ノ版

ノ消漆シタルモノ成ヘシヨク考エシハ梶ノ形アリ

一 銀杏

或書ニ曰ク銀杏ハ木ノ名ニテモ無シ葉ノコト

ニモアラス實ノ名シイテフト云時ハ鴨脚シ銀杏

シイテウト讀ヘカラスト云リ此說甚不宜梅モ

桃モ梨モ皆實ノ名ニシテ則花木トモニ其文

字シ此イテウニ鴨脚ノカヘ字有ヨリカハル不

自由ナル說ヲ附ケタリト云ニ銀杏和名イテウシ

其葉一ツノ分レツレハ一葉ノ訓シ 銀杏イテウ
讀ヘキコト勿論シ 古語曰ク 盡信書ヲ不如
無書トハ如是ノコトヲ云カ又曰ク 凡ソ書ノ誤ト
云ハ偏ニ自己ノ見聞スル取ツ是トシ人ノ已ニ異ナル
ヲ非トスルト 妄ニ聞見ヲ信シ事物輕率ニ決
定スルト 此四ニ必誤アリト云ニ然レハ 輕率 陋 愚ノ
此書亦必 疎誤多カラシコトヲ恐ル 觀之ツ人 詳
察シテ其謬ヲ正サハ是ヨリ幸ナラン

一 木ノ實 是諸木ノ實ノコトニアラス 椿ノ實シ畿
内江東ノ方言椿ノ實ヲ木ノ實ト云テ其油ヲ
女ノ髮ニ用ユ不粘シテ佳物シ

一 佛手柑 枸橼 香橼ノ名アリ 人指ノ柑ヲ成シ
佛手柑ト云トノ蜜 淹トス 甚香氣アリ

一 温列橘 此種唐土温列ヨリ來ル温列ハ浙江ノ
南ニテ柑橘名産ヲ取シ本邦紀列ノ如シト云ニ
倍雲列橘ノ字ヲ用ユ誤シトソ

一 温棗 此種蕃邦ヨリ渡テ此訓ハ則蜜語シ今
京師ニ多シ梨子ノ如ク風味モ又梨子ニ似テサカロシ
加世伊太ト云菓子是ニ砂糖及蜜ヲ和シ製シタルモノシ

一 果李ノ實 楨櫃シ 京師ニ多シ花ハ林檎ニ似テ子ハ

胡瓜キウリノヤ短キモノシ其味シブシ唐土ヨリ將來スル櫛木ヲモ倍クワリント云紫檀ノ如ナル木シソレトハ別物シ

一椽ノ實トチ 山木ニテ大木アリ葉ノ大サ七八寸實ハ栗

ヨリサ大キシ餅ニ作り麩ナニトシテ凶年ノ食トス木ニ班文有テ諸ノ器ニ作り箱トス甚タ美シ木齒山中ニ多シ是ヲ麩トスルニ其粉ヲ熱湯ニテ澆ニ調ヘ温飽ノ如ク棒ニ捲テ温ナルウチニ急ニ伸ス之冷レハ堅クチハニツテ不伸其手廻レ甚タ急ナル故ニ倍談ニ椽麩棒ボウフルト云ハ是ト云ニ

一櫟イナキ 櫟ニ似テ花ハ栗ノ如シ實ハ椎ヨリ少大シ

木硬ノ多ク船ノ櫂ニ作ル實ヲ以テ秋トス

一團栗トシク 櫛ノ子コノキシ數種アリトシテハ櫛ノ一種小

櫛コノキト云木ノ子シ椎ニ似テ大キシ味澁不可食凡櫛櫛カシ櫛コノキ櫛コノキ一類ヲ異ニシテ文字モ書ニ混用非諸ニ倍字ニテモ世間見覺タル字ヲ用テ宜シ

一榛シシ 本州ニ榛ハ關中ニ多シ關中ハ秦ノ地シ故ニ字秦ニ

从トシト云々木ハ低トシ如荊ノ叢生ス花長ク垂ル實ハ作トシ苞ヲ三ツ四ツ相連ル一ツノ大キサ如トシ相トシ是又民糧トス然レニ其實ニ空ナルモノ多シ故ニ諺ニ十

捺九空ト云リ其葉悉皺シワ依テ和訓ハバミシ
是又秋季トスルモノハ實ミ也

一ヒヨシ 本名蚊ハ子樹 和名イヌノ木 木葉トモニチハモチ女貞ニ
似テ葉厚シ花赤ク實ハ如豆、又葉ノ面ニ實ノ如ク
脹出テ大キヤ桃李ノ如ナルモノ中空ニノ小虫アリ秋
至虫化シ去テ其壳堅ク檳榔子ニ似タリ文理
アリ西土ノ俗猿瓢ト云胡椒壺トシ瓢簞ニ代
依テ俗稱瓢ノ樹ト云リヨク鳴ル駿列ニ多シコレ
ヲ笛トシテ祭禮ニ吹ク

一皂樹 皂莢子サウキヤウシ實 皂角刺サイカクシハ木ノ刺シ皂莢サウキヤウ
實ノ莢ニシテ刀豆ノ如シ秋熟シ枯テ内ノ子
カラツク秋季トスルハ實也

一菩提子 是異種也昔洛東建仁寺ノ閑山千光
国師宋ニ入リ此種ヲ得テ帰朝シ筑前ノ香椎
報恩寺ニ植ラレシヨシ傳ニミエタリ後其種京
畿ノ寺ニ傳テ植レ之 泉涌寺六角堂叡山ノ
西塔等ニ有 宇治ノ興聖寺ニテ予見レ之 一樹
葉ニ色アリ一ツノ葉ハ棕ニ似テ厚ク大シ又一ツノ
葉ハ木犀キクサイニ似タリ其葉ニ莖有テ莖ヨリ嫩ヤハラカナル
細枝ヲ出レソレニ花咲實ヲ結フ其實淡黒堅硬
ニシテ念珠トス香氣芬芳タリ 興聖寺ノ僧ノ曰

曼經ニ説ル菩提樹シ天竺於此樹下佛成等正覺
シ玉フ樹シト云ミ樹ノ高ヤ一丈ハカリ枝極ノフリ
百日紅ニ似テ甚タ奇樹シ

一 センタンノ實 棟ノ子シセンタンハ俗稱シ金鈴子川棟
子並ニ同シ

一 タモノ實 葉橘ニ似テ實ハ繪樹ノ子ノ如シ數種
アリタモノゾメクブ方エヨリ其唱モサツ異
アリ其子秋ノ末ニ紅熟ス倍ツノミト云小鳥好
喰之ヲソスマフト云又實熟シテ黒ムモノヲ
鳥タフト云江東江北トモニ多シ油ニシメテ民用

トス其木モ木理細ニテ良材シ大木アリ

一 美豆木 高サ一二丈葉ハ梅嫌ニ似テ厚ク子細カニ
モチノ如シ初秋ニ早ヤ熟シ赤ラムユ花ヲ好ム者
七月七日ノ花ニ採之ヲ葉ヲ悉ク取去テ梅嫌ニ似
タルヲ賞翫スミヅキ正字ナシ亭環ニ橙ノ字ヲ用
ラケリ非シ橙ハアヘタチナカフス或ハダイクト訓ス

一 仙菓 葉ハ橘ノ如クシテ長ク大シサ割ニアリ實ハ南
天ニ類シテ深紅一聚ニ五七粒七八粒ヲアツマリ生
又一種平地木ト云モノ有葉センリヤウヨリ長ク
割ニナシ實ハセンリヤウニ不違サレハカリ大粒シ

カキ

廿三

是皆藪柑子ノ異種也 秋ノ末ヨリ 其實甚深紅
可レ愛 大和本州ニ 珊瑚ノ字センリヤウト訓ス

一 シケスイ 飲^ツ熱ノ木ト 舊事記ニ載タルモノ是也 秋
甚紅葉ス 立花ヲ好ム者 秘藏ノ杖^{サス}之ヲ

一 忍州 卷柏^{ハク}ニ似テ 薄ク嫩^{ヤラカ}し 山中ノ石間ニ生ス 秋
紅葉ス庭ヲ好ム者 岩ハサニニ植テ愛之ヲ

一 龍膽^{リンダウ} 和名クダニ又ヲモイヤエヤ三叶 葉筈ニ
似テ厚シ 其小葉ナルヲガ、リントウト云 花白シ常
リントウハ碧花ニシテ 牽牛花^{アサカホ}ニ似タリ可愛 又
女郎花ニモヲモイヤノ異名アリ 不可混

一 吾亦紅^{ウレモコウ} 葉小梅ニ似テ 花ハ千日紅ノ如シ 又叶花肆
テ地榆ヲモワレモカウト称ス 初秋ヨリ花アリ 又古
歌ニヨメルワレモカウハ芒^{スギ}ノ類ニテ 野生ノ物花ハ穂^ホ
ト云ミ 右ノ二種トハ別物シ 源氏 白宮ノ卷ニ
武藏野ノ霜カレニミシワレモカウ秋シモシトル 白ヒシケリ

一 黃蜀葵^{トロク}ノ花 夏六月シコレヲ九月ニ出セルハ大キニ非シ
楮^{カウ}ト同ク紙ニ漉^スヤシ 江東ニ多ク作^ル之ヲ 莖ノ高サ四五
尺花黄ニメ花葉トモニ木綿ニ似タリ 本州ニ載スル黄蜀
葵ハ花葉異シ 土地ノ変カ種ノ異ナラン

ナク中

一 豌豆 エンドウ 文豆 フントウ エンドウハノウ豆 フントウハ倍云

ヤエナリし又緑豆トモ云

一 暹稻 シエン 凡ソ稻ニ早遲晚ノ三品アリ 暹稻ハ中稻

し又 稔 シラチ ト云ハ莽田ノカブヨリ再生スル苗ヲ云し

一 漆カク 漆ノ木ニ枝梢迄ニ悉ク鋸 ノミ ヲ以テ挽目ヲ附

其挽目ヨリ脂ヲ奪ス是則生漆汁し 眞羽及

下野和別尤多シ 中国西国ニモ取ニ有リ 其脂ヲ

擄取諸国皆六七月しトゾ 九月ニ出ヒルハ違ナラン

一 小瀑江鮎 ガウレ 是論物し或書ニ江鮎ハ泥ヲ喰フ云

泥臭キトコロ有リコノ頃ニ至リ其味能ク成色モ白ク

瀑ニタルカ如シ依テ名ヅクト云リ此説甚不得心し

苧環 ラウキキ ニ紅葉鮎ノ下ニ出ノ境ノ浦ニアリト記セルハ

如何シ江鮎境ノ浦ニ限ルモノニアラス又江鮎ハ鮎 ボラ

ノ一名ナレハ是鮎ノコトト云ヘルモ有 鮎ハ無季し

彼是不合ノ説し 按ニ是小瀑江ト云江ノ紅葉鮎

ニノ昔京師ニ多ク出シタルモノトミエタリ小瀑江本朝

名取志ニハミエス 慥ニ泉列境辺ニ有シ 和ニ名ツケ

タル葉ナドハ後知ヌ取モ有ルモノ也又古記ニ泉列

海鮎古来名産し 予ヌト称シテ形々如鮎ト云

上古和泉国ノ本名茅渟ト称ス 依テ碓泉境

辺ノ海ヲ 予ヌノ海ト哥ニモヨリ 則 予ヌト云 眞

カク中

純

ヲ出ス海鰯ノ二字ナスト割セリ是等ノコトヲ
云モノ放猶可尋

一尾越ノ鴨

凡鴨ハ冬季ニ至テ山ヲ越渡リ来ルモノシ
然ルニ暮秋早ヤ其氣ノ冷スルモノ尾ノ上ヲ越シテ
来ル尾越ノ鴨ト云ヒ江湖ニ来ルモノ越前境ノ山
ノ尾ヲ越テ九月渡ル風味最勝レテ京師ノ茶
人等賞味之ヲ

一網代打

河ニテ菓ヲ取ル具シ竹ヲ編ミ造ル宇治
川田上川ニ氷菓ノ網代ヲ打シ

伊勢武者ハ三ナヒラトシノ鎧キテ宇治ノ網代ニガリセ哉

是氷菓トヨミ掛テ網代トツケタルモノシ關東北
國ノ河ニ鮭ノ網代ヲ打ツ漢人是ヲアジト云ヒ
江湖ニ打魚籠築ノ類シ

一住吉ノ神送

廿日 倍ニ十月諸神出雲ニ臨行ナル
中ニ住吉ノ神其鎰預リナルニ依テ諸神ニ先達ヲ
九月廿日ニ臨行シ玉フト云俳諧ハ平話倍談ノ
當用ナレハ如是ノコト季ニ用ル勿論シ

篋纪輪 卷之四

方竟千梅選

十月

一更衣

朔日

主上篋ノ御裝束ヲ撤シテ冬ノ御衣

改玉ヲ掃部寮獻之ヲ後南殿ニ出御シ玉ヒ御
節會有其式孟篋ノ旬ニ同シク甚嚴重シ群臣
氷魚ヲ玉フ則孟冬ノ旬ト申ス以上公事根源ニ出

一神送

諸神出雲ニ臨行シ玉フ故ニ送之ヲ依テ十月

ハ神無月ト云事書ニ載タリ或ハ出雲國ニ神
在ノ浦アリ是後人ノ附會シテ名ツケタルモノトソ

徒然抄ニ十月ヲ神無月ト称シテ神事ニハ、カルト
云事體ニ記タル本文ナシ本説モナキコトシト云、
兼好ハ吉田ノ庶流シ神道ニ沙汰アル事兼好
不知事有ヘキヤナキ事ナレハコソ徒然抄ニハ書出シ
タレ或書ニ十月ハ極陰ノ月シ陰ハ則兔シ陽ハ則
神シ依テ陽カミ無月シト云、又或記ニ十ハ極數ニノ
上無シ故ニ上無ト云リ十二律ノ名目ヲ考ルニ
十ノ調子カミム上無ト称セリカミナレ月ノ称體ニ此數
ヨリ出タリ今月諸社神事無數故ニ後ニ神無ノ
文字ニ書カヘタルモノシトソ此月諸社神事ナキニモ
アラス住吉ノ神供上子日河内平岡ノ神祭上申日
松ノ尾神前ノ八講十一日讚列金毘羅祭同日也
ソレニテモナシ神ハ不變不測ノ神躰シ如何シ
ソ往來ルノ妻アラシ

一 雄糟シヤツサウ食クラ

進スム炉ロ炭タン

唐土ノコトシ古事要言

ヨソ十月朔日有司進ム炉炭ツ民間置酒ノ作ス煖
炉會ツト云、本邦炉開キ茶ノ口切則是也

一 亥子ノ餅

御ヲ玄猪ゲンヂョト云

諸国年中行事抄ニ曰ク

横列八木ト云村ニ門太夫ト云數代ノ百姓有恒
例トシテ每十月上ノ亥日禁裏エ餅ヲ献タテマツル最モ
家内ヲ索齊シ別火ヲ以テ炊キ之ヲ但小豆ヲ交
搗餅ノ色薄紅シ幅四寸長サ六寸五分厚サ

二寸皆筥ニ入上ニ五角ニ粟五ツヲ置ク都合百筥
製皆同シ又中ノ亥日ハ同国大丸村ノ邑中ヨリ八
十筥献之ヲ又末ノ亥ノ日有レハ切畑村ヨリ献之ヲ
此日ハ負數無定式然ノ其價^{フタイ}ホトノ録ヲ玉フ
山科ノ郷民撰列ニ至テ運^ヒ献^ス之ヲ節會ノ後
分^テ筥^ヲ江戸ニモ至リ群臣ニモ玉フ其始ヨリ凡千
余年ニ及^{シテ}懈怠ナシ中頃故障有テ兩年彼^レ
止^レ之^ヲ度、御惱アリシカハ石トノ博士奏之^ヲ又
如^レ古例^ノ献^之ト云、公事根源ニハ不載之^ヲ亥
子ノ餅内藏ノ寮ヨリ奉備朝餉ニ聞召^ス之^ヲ十
月亥ノ日食^ス餅^ヲ無^レ病^ト記^{セリ}延喜式ニモ源氏ニモ
亥子ノ餅ノコトア^レハ上古ヨリノ事トミエタリ

一 射場始

五日 每十月禁庭右衛門ノ陣ノ子場
射^{アツ}棚^ナヲ築カエ^レル故ニ此日射場始シ天子モ^ユ
場殿ニ出御ナツテ射席ニ着玉フ御座ノ左右子
矢^ヲ立^ラル群臣ト共ニ射藝^ヲ學^ビ玉フ意^シ是文
武^ノ兩道ハ治國ノ本源ナ^レハ^カ闕^セ玉^ハ又意^シト^ソ

一 殘菊ノ宴

五日 群臣ニ宴盃ヲ賜テ詩ヲ作ラシム
然^レハ初心俳子殘^ル菊トシテモ十月ト覺^エ
タル族有^リ殘^ル菊ハ九月十日ノ菊ノコト^シ不可混

一 達ノ忌

五日 洛陽禪家皆行^ク之^ヲ中ニモ
五山ノ法會嚴重^シ

一興福寺ノ法華會 六日 南圓堂ニテ法華大會ヲ
終セラル是内麻呂公ノ御忌し兩院ノ左大臣冬
嗣公ハ内麻呂公ノ御子し父ノ御為ニ南圓堂ヲ
創建シテ此大會ヲ始玉フ此堂建立ノ時春
日大明神ノ御詠
補陀落ノ南ノ岸ニ堂タテ、北ノ藤ナニ今ノ學エシ
其頃藤原氏四家有ル内冬嗣公ハ北家ト申シ
タレバカリ神詠有ケルし今ノ土撰家皆其御
苗裔しマコトニ神詠ノ如シ南圓堂ハ觀音ノ吳
場ニ補陀落ノ藤トテ今モアリ東山堂ノ
八重櫻ト一雙ノ樹シ

一維ノ會 十日ヨリ 十六日ヲ至 興福寺ニテ行ル是鎌足公ノ御
忌し和銅七年淡海公始之ヲテ今世ニ至間斷
ナシ故ニ此大會唐土天竺マテ聞エ侍ルトソ
菅家ノ詩ニ名ハ聞ニ三國ニ會ハ留興福朝
之為朝蓋是會カシト云

一御影講 三エイ 十三日 日蓮上人ノ御忌しヲメコト云
俗言ノマ、俳諧ニ可用ヲメコトハヲミエイ
講ト云重言し然ヲ今御會講ノ字ヲ
用テ世通スルし 千律師附合ノ句ニ
黙礼ヲシテ別レタル侍衆
暮レヌサキカラ御會講ヲシ合フ

一水官解厄

是中華ニテ十月十五日ヲ下ノ元日トシテ道士ノ沙汰スル事ニ凡テ如是ノコトニ無本據

一法勝寺ノ大乘會

此寺頽顛ス其跡ノ今令栗田邊ニアリト云ニ

一初雪ノ見參

初テ雪降ル日群臣參内スルヲ云シ桓武天皇延曆十一年ニ始ル又一條院ノ御時雪山ヲ築セ玉フコト清少納言枕巾紙ニ書記ス此コト今モアリ雪不足ナレハ御願寺エ被仰付寺ヨリ献雪ヲ令築之ヲラルト云ニ

一冰魚ノ使

宇治及田上ノ細代ヨリ冰魚ヲ取タカ使シ延喜式ニ載スサテ此冰魚ト云モノ江湖ノ名産ニシテ他別ニナシ伊勢力江戸ノ江ニアル白魚ヨリ勝テ潔白ナルモノシ江州田上及宇治川ニ細代ヲ打テ取之堅田ニテハタカ櫛細ヲ以テ多ク取レリ然ルニ或書ニ曰古エ宇治川田上ニテニ取リシ冰魚今ハ勢別三列駿遠ノ海ニ最多ク取之サラシ以竹串貫眼曝乾ト名ツケテ諸列ニ送ルト云ニ是大キニ誤ノ記シ其鮫トスルモノ冰菓ニアラス白魚ノ類ニテ別物也又大和本州ニ宇治田上堅田ニテ冬月取ル冰魚ト云ハアユ難ノ苗也ト記セリ是又大キニ誤レリ皆書籍ノウヘノ沙汰ニテ推量之其

生物出處ヲ見届サルノ誤書ニ如是湖水ノ産魚ハ江
湖ノ者能ク知之ヲ 氷魚ハ鮫魚ニアラス白魚ニアラス
勿論鮫ノ苗トハ大キニ格別ニ冬月有テ春季決シテ
ナキモノ也 色サナカラ氷ノ如シ 白魚ノ純白ナルト別ノ
物シ 此魚ヲソラク他列ニナキモノ也 衣笠内府
新六帖 氷魚ノヨル近江ノ海モ風サヘ又田上川ニ網代オラン

一 柴漬 ^{フシツケ} 正字 ^{フシツケ} 霖 冬小魚ヲ取ルニ柴ヲ多ク 絨 ^{カラスケ} 其

内ニ餌ヲ入コレヲ江ニ沈メ置テハ江中ノ魚集リ
入其下ニスクヒ網ヲ入引上テ取ルシ城列淀伏見
ノ江ニ多ク有之日本紀ニ柴ノ字フシト讀ニセタリ
哥ニフシバトヨメルハ重子言葉也

一 竹笥 深キ江ノ底ニ沈メテ魚ヲ取ル具シ其形 ^チ 丸

小籠ニシテ口ニカラクリ有 沈ム時ハ口開キ 引上ル
時ハ口閉ツ 是ニ餌ヲ入テ湖底ニ沈メテキテ 雜魚 ^サ コ
蝦 ^{エビ} ヲ取ル尤冬月多シ 湖西堅田ノ漁船一艘ニ竹
笥數百ツ、積ミ沖ニ漕ツレ出テ沈之ヲ 漁人ノ産シ
ヲタマキ笥ノ字ヲ用イヲケリ非シ 笥ハウエト云モノ
ニテ 流川ニフセテ魚ヲ取ル具也 タツヘトハ大違也

一 冬櫻 冬木ノ櫻 カハリ花ナトノ事ニ非ス只冬枯ノ櫻也

一 落葉ト木ノ葉 摠ヲ云時ハ同シ 別シテ云時ハサレ 趣
意違アリ可得其意ヲ

一 枯野ノ露 御傘ニ秋ノ十月ニ出セルハ御傘ヲ見誤ル
モノカ 御傘ニ枯野ニ露霧虫色ナト結ヒタルモ
秋シト云リ又クタラ野ト云ハ冬野ノ腐ノ字
又朽野シ

一 ハツ手ノ花 葉ハ盡天狗ノ團扇ノコトク本トツニシテ
岐ハツニ分ル故ニ名トス初冬白花ヲ開ク予カ隣家ニ
大木有テ年々見之ヲ然ニ三才圖會ニ五六月小白
花ヲ開クト云ルハ誤レリ以之ヲ思フニ書ヲ信シテ誤ルコト
多シ一書誤レハ万書ノ誤トナル心ヲ用ヘキ事シ

一 蕎麥芥 或人曰新ソハハ秋シ然ルニソバ芥ハ十
月ノ季不審シト云ニ是俳諧ハ其當用ヲ專ト
スル取シ新蕎麥其子未熟シテ青アルモノヲ
賞翫ス依テ八月ニハヤ信州ヨリ多ク出之是秋
景物俳諧ノ當用シ京畿ニハ無之コト故ニ其
子ノ熟スルヲ待テ芥時ヲ季トス依テ十月シ

一 夜興引 冬ノ夜山中獸ヲ獵ルニ犬ヲ引ク故ニ俳
師ノ詞ニヨコロクト云シ獵ノ内先ツハ雪中ノ狸狩ヲ云トシ

一 鴛ノ衾 哥ニモ讀リ此鳥其臥ストコロ諸鳥ト
異ニシテ菰葦ナドノ間或ハ朽木ノ穴ニ雌雄翅ヲ
交エテ卧故ニ鴛ノ衾ト云シ鴛ノクツト云ハ堂上或

僧家ニ用ル鼻高ト云及リタル啓シ其形チ鴛ノ翅
如レ又及ス啓ヲ鴨ソラ啓ト云シ是ハ專ラ蹴鞠ニ用ユ

一 アジノムラ鳥 小鴨シ群飛スル故ニ群鳥ト云到鴛ノ字ヲ

用ユ倍字シ大和本州ニ鶉ノ字ヲ出ス正字シトゾ乃鴨

鈴鴨車鴨サキ鴨赤頭羽白尾長等ノ類皆

鳥カモノ屬シ

夫木集トチ初ル氷ヲイカニイトフランスレ鴛ムラ渡ル誣訪ノ入海

西行

一 鴨鷹 鴨ヲ取鷹狩ヲ云トソ

一 秋アイサ紛 是又小鴨シ万葉ニ秋アイサ紛ト讀ル是ハ活法

書ミ紛ノ字ヲ砂ニ書誤レリ

一 ウルメ 鯰ノ屬シ鮓ウメハ倍字シ正字不詳此魚目大

潤フヨツテ名トス阿別ノ海濱ニ多シトソ養ホシクワニシテ京

師ノ市ニ販ヒサク其多ク来ル時ヲ季ニ用イタルモノシ慥ニ十

月トモ定カタシ他別ニテハ季トスヘキニモアラス

一 榾カダ材ニ伐キリ取タル木ノ根ヲ掘出シタルモノシ關東ニテ

根骨ト云山家云冬ノ炉ニ昼夜タケテ燒レ之ヲ寒シヲ

凌クモノシ我戀ハ榾カダタク山ノ尉カ国 千律師

是慈鎮和尚ノ我戀ハ松ヲ時雨ノソメカ子テ真葛

カ原ニ風サハクシト云ルタクヒニシテ心理無味ナル

取凡情ヲ以テ洲汰スヘキニアラス

綿 秋冬ニアリ 木綿^{キワタ}秋其外綿^{ワタ}クル打ツノル綿^{ワタ}
衣等皆冬シシカシ綿ヲ産トスル取ニテハ操^{ウツ}
打ツモ秋シ 翁河内国ニテ

綿子ヤ毳毼ニ慰々竹ノ真

是秋ノ紀行ニ其産業ヲ則見テセラレシ句シ
常在家ニテクル打ツノル秋ノ作業ニアラス冬シ
御傘ニ打綿冬ノ用意ニ打ナレハ秋ナルヘント記セルモ
是ヲ産トスル取ノコトシ又綿ツハ綿帽子 ヲバ子
綿臂綿 是皆マワタノ名目ニシテ 新ハ秋 只
真綿ハ雜シヲタマキナシトニ是ヲ十月ニ出セルハ非シ

蒲團 頭巾 季ニ用アラハ冬トモスヘシ但シ蒲團ナト

ハ季トスヘキニアラス

一シマキ 時雨ニ風ノ添ヒタルヲ云シ風躰降物シ

一雪垣 北国大雪降ル取十月初ヨリ用意ノ人家
軒マハリニ逞^{タツ}シキ丸太材ヲ立テ掛横ヲ結ヒ簀^スヲ
編^ミ付テ垣トス 深雪ノ内其陝^{アヤ}ヲ道トシテ隣家
工通スルシ町續^{ツキ}ノ取ハ町中軒下ノ通路アリ
依テ雪垣ヲ大切ニセリトソ

一雪棹 雪ノ浅深ヲ量ル丈尺ノ竿シ又深雪

内物ノシレシニ立置ヲモ事竿ト云シ

十一月

一 曆奏

朔日 中務省ヨリ明年ノ曆ヲ献ルヲ云シ
昔朝曆ノ始ハ 欽明天皇十四年ニ始ルト云ニ

一 朔旦ノ冬至

十一月朔日ニ冬至ノアタルハサケ年ニ一
度ツ、有テ甚タ日出度キコトナレハ主上南殿ニ出
御ナツテ旬ノ節會行セ玉フ群臣賀表ヲサシク
神龜二年十一月朔日主上大安殿ニテ冬至ヲ
賀シ玉フ事国史ニ載セタリ

一 一陽ノ嘉節

今月ハ一陽未復ノ月ナレハ可賀ニ

節トシ 行事ニハラス

一 相掌ノ祭 アイム 上ノ卯ノ日 是ノ祭 神祇令ニ曰 住吉大和
三輪 穴師 恩智 意富 葛城 鴨 紀ノ日前
等ノ神主各官幣ヲ受テ 執行ス之ヲト云ニ
延喜式ニハ 相掌ノ祭ノ神 七十一座トニエタリ
此祭令ハ 絶テ 不行トソ掌ノ字ムト讀 日本紀ニモ出

一 宗像祭 ムナカタ 上ノ卯ノ日 筑前ノ祭所ノ神 三座 田心姫ノ
命 タキツヒメ 湍津媛ノ命 市杵嶋姫ノ命 神代卷ニ秀載ス

一 山科祭ヨリ日吉祭迄 凡十四社ノ神事 公事根源
及俳諧活法ノ書ニ出ス 取皆春暮ニモ有テ出
侍ハ 爰ニ不記 凡兩度アルモノハ 前ヲ以テ 季ノ
後ノコトハ 其句ニコトハツテ 季ニ可用

一 五節帳臺ノ試 ニロミ 中ノ丑日 至上常寧殿ニシテ 五節ノ
舞姫ノ内ニ 参ルヲ 觀覽シ玉フ 参リト、ノフリ
夕時ハ 御帳臺ニ出御ナル 御直衣ニ 指貫 御沓ヲ
召ス 天子ノ 指貫及沓ヲ 召スハ 此日ニ 限コトト云ニ

一 殿上ノ淵醉 中ノ寅日 狩ノ使 童女御覽 皆五節ニ
ツキタル事シ 五節ノ翌日 殿上ノ 間ニ 群臣令様
朗詠シ 后宮 女院 御殿ノ 廂ニテ 宴盃シ玉フ 諸

臣淵醉ス是ヲ殿上ノ淵醉ト云シ上古ハ年ニ
行^レ之^ヲ今ハ大嘗會ノ時ヨリ外ニハ不行^レ狩ノ
使ト云ハ河内国交野^{カタノ}ニ雉子ヲ召ス勅使シ又
翌日ノ卯ノ日清凉殿ニテ童女獻覽シ抑五
節ノ舞姫ノ起リハ天武天皇吉野ノ宮ニテ琴ヲ
彈^レ玉ヒシ時峯ヨリ天女降り羽衣ノ袖ヲ五度
翻^レセシヨリ始ルト云ニ

一鎮^{タニシツメ}魂^ノ祭 中ノ寅ノ日 人ノ魂魄ノ遊離スルヲ招キ鎮^シル^ニ
此祭上古ヨリノ事ニシテ禁裏ハ勿論院中宮春宮
ニテモ行^レシコトシシカ貞觀ノ頃ヨリ神祇官ノミ
ニテ行^レ之^ヲト云ニ

一新嘗祭 中卯ノ日 天子ノ御代始ニ行^ルヲ大嘗會ニ云
年毎ノ十一月ニ行^ルヲ新嘗祭ト云シ用明天皇
二年ニ始ル日本紀ニ天照太神 新嘗キコシ召ス
トアリ今年ノ稻ヲ奉ル祭シ

一豊明^ノ節會 每十一月中ノ辰ノ日 是禁庭年中
ニテノ大會シ此節會ノ取註モ今年ノ稻ヲ太
神宮ニ^{マテニツラ}献^シメ玉ヒ天子モ聞^レ召臣下ニモ賜^ラ之^ヲ式^シ
公事根源ニ曰此日ハ殿上ノ諸司暗ノ御裝束シ
大歌ノ別當内辨催^レ之^ヲ舞姫ノホル五節同斷
シ又事ニ堪^{タス}名^{カニ}上^{カニ}達^{カニ}部^{カニ}催馬樂^{カニ}訊^{カニ}乱舞ス
文司召^シテ詩歌奉^ラレムト云ニ天子ノ御代ノ

始大嘗會行セ玉フ翌日ハ是非ニ定ツテ豊ノ明ノ節會アリクハ四時ニ限ラス行レ之ラ常豊ノ明リト云ハ每十一月中ノ辰ノ日新嘗祭ノ翌日又大嘗會ノ時ニテモナク例十一月ニテモナク臨時ニ豊ノ明セサセ玉フ例モ有リソレニ必子ノ日ヲ用エルトシ或記ニ曰天平宝字二年正月三日則子日シ豊ノ明シ玉フ于時藤原ノ内大臣鎌子奉之公卿詩哥献シム右中辨大伴ノ家持ヤカモチ初春ノ初子ノケフノ玉箒手ニ取カラニユラク玉ノ緒此歌万葉集ニ入但レ万葉集本有テコノウタ無キモアリ此日内裏ノ東屋侍従以下ノ群臣ヲ侍ラシメテ玉箒ヲ賜フ依テ此歌アリト云々

一 小忌衣 山藍ノ袖 日蔭ノ蔓 心葉 皆是大嘗會

豊ノ明リニ用ラレモノシ 山藍ト云ハ豊ノ明リノ小忌ノ殿上人ノ装束ノ色シ山藍ノ花ニテ摺タル衣シ是ヲ則小忌衣ト云シ小忌ノ殿上人ト云ハ此日御神樂ノ役ニアタル殿上人シ續古今令上ノ御製雲ノウエノ豊ノ明リニ月サヘテ霜ヲ重ス山アイノ袖

一 日蔭ノ蔓 是山中ノ古松ニサガリ苔トテ長キ蔓生ス

一名 榎苧纒 則松蘿シヒカケノカツラト訓ス清キ山中ニ生スルモノナレハ神物ト成ル天照太神天ノ磐戸ニ篋リ玉フ時ノ御神樂ニ天ノ鈿目ノ命ヒカケノ蔓ヲカサレトシ正木ノカツラヲ手タスキ纒トシテ舞玉フ

コト神代ノ巻ニ載ラレタリ以之ヲ 大嘗會 豊ノ明リ
 等ノ式正ノ御神樂ニハ必コノ蔓ヲ用ユト云ニ
 新古今
 アカ子サス朝日ノ里ノ日カケ州 豊ノ明ノカサレ成ニ
 朝日ノ里ハ近江ノ名取ニ上古此山中ヨリ 松蘿^{ヒカケノカツラ}ヲ
 タテニツリレトシ

曇リナキ豊ノ明リニアフミナル朝日ノ里ハ光サレ添フ

一日蔭ノ糸ノ冠 白糸或ハ緑ノ色糸ヲ組ミタルヲハ條^ス
 冠ノ左右ノ角ニ懸テ垂シ是ハ畢竟^{ヒツキヤウ} 松蘿ノカ分^{ヒカケノカツラ}
 し是等ノコト有職家ノ秘決ニシテ此ニ頭スモ甚
 憚^{ウカ}アルコトナレトモ記セサレハ其アヤ分タサル故ニ畧^{アラク}
 記之ヲ侍ルニ 松蘿ハ生ハ至極清ヨケレトモ後^{サル}草

纏^{カヒ}ト名付ケテ其形ハサケタル菩薩^{ハツシ}ナレハ今錦繡ノ
 美麗ナル衣冠ニハ取合ス依テ今世松苗維ヲ止メテ
 日蔭ノ糸ノ鮮麗ナルニ易トソ神代ノ古風自
 然トスタリ物毎只美麗ニナル而已ト云ニ

一心葉ト云モノ 日蔭ノ糸ノ冠ニ付クモノニ 御傘ニ曰心
 葉是體ニ知レル人ナシ 師傳ヲ受クヘレト云ニ 按ルニ松
 レテ秘事ト云コトヲ謾^{ミタリ}ニ書キ頭セハ其書浅クミル
 ト云事アリ依テ御傘等ノ書ニハ残サレタル事 數
 多有リトミエタリ 予此書ヲ頭ス趣意ハ更ニ有才
 他門ノ為ニアラス 初心ノ門葉ニ 令^{ナチ}知之ヲ 專ラ俳
 事ヲ進メシムル為ナレハ見置^キ 聞シクホトノコト悉

書記ニ畢ヌ下愚ノ分際ニシテ無^キ憚^{ハカリ}書記過
當^シト思^ハン人ハ必見玉フコト無^ク用^シ扱^ク心葉ト
云ハ大掌會豐ノ明^リノ小忌ニ當^レル人ノ冠上ノ飾^シ
金銀ヲ以テ梅松竹櫻菊ナシトノ枝花ヲ作^リ冠
上ニ挿^スシ其挿^シ金ノ端ニ輪有^リテソレニ日蔭ノ
總^ヲ結^ヒ付ケ垂^ルル^ル當^世加茂ノ臨時ノ祭ニ
神人日蔭ノ糸ノ冠ヲ着^ス其冠上ニ色絲ヲ以テ
作^リタル花ヲ挿^ス是心葉ノ畧^シ以上大掌會豐
ノ明^リノ一件如^ク斯猶^ヒ此餘出^テ取^テ師傳ノ微細
ヲカ袖中雜譚ニ有^リ

一加茂臨時ノ祭 宇田ノ天皇イマ夕王侍從ト申^レ

奉^レ時ニ加茂大明神不思^ク茂ノ御示現有^テ思召モヨラス御
位^ニ即^セ玉^ヒタレハ寛平元年十一月始テ臨時ノ祭ヲ奉^セ玉^フ
則北祭ト云^シ是^レ其時ノ御使ハ時平公未^ク中將ニテ勤^ミケルトナン

一東三條御神樂 下ノ外日 是年中行^ヒ夏公事根源等ニ不載依^テ

何^レノ神社ノ神樂^シト云^フコトヲ知^ル者ナ^シ往古東三條ノ御
第^ニ名神西社アリテ天子ヨリ奉^セ玉^フ御神樂^シ凡^ソ京師
油小路ヨリ東西ヲ分^ツテ西三條東三條或ハ東ノ五條ナ^シト
云昔中華ニ准^メ東ヲ洛陽西ヲ長安ト云^リ古事^ニ及^テ拾
芥抄ニ曰東三條ノ第^ハ二條ノ南西ノ洞院ノ東ニ有^テ元
醍醐天皇 六十代ノ御子重明親王ノ舊宅^ニ負信公忠平傳
之^ラテ代^ニ藤氏ノ御第トナ^レリト云^ク法興院拱政^ノ兼家公

一条院ノ時一條ノ院 六代 此御第ニ誕生レ玉フ爰ニ角振
 外祖父ノ明神ト云座^イ則兩神ニ授^手從四位^ヲ又其後
 近衛院^{七代}於此第ニ御元服^ヲテ此兩社ヲ正一位ニス^メレ
 玉仁平三年十一月始テ御神樂ヲ奉^サセ玉フ東三條ノ御神樂
 是トシ續古今集冬ノ部太上天皇^{八十七代}ノ御哥御言書^口キニ
 寛元二年十一月東三條神樂ノ夜ツカハ侍リシ

白雪ノフリニシ跡ニカハラ子ハ今夜ヤ神モコ^コ口解^クシ
 御返^レ 園屋入道前撰政大臣兼^兼 近衛殿四世法興院
 兼家公六十一代ノ孫

白雪ノフリニシ跡ヲタツ子ヲモ今夜ソ祈ル御代ノ千年ヲ
 此御贈答ヲ以テ考ルニ彼兩神ハ上古ヨリ此御第ニイ
 コセシ古キ御神トシエタリ然^ルテ京師世々ノ兵乱
 彼兩社モ跡^跡歿^歿ナク今御神樂ノ名ノミ残^レリ

一 里神樂 神樂ハ元ト天照太神ノ室前ニ限^ルコトニテ
 侍リケルガ後諸方ノ神社ニモ行^ク之^ヲ依テ禁裏
 内侍所ノ御神樂ニ對シテ諸社ノ神樂ヲ
 里神樂ト云同^ク冬^ニ夜^方ニ

一 神樂哥 神遊ノ哥 阿知女 庭燎 採物ノ哥 韓
 神訊^ヲ 大前張^ハ 小前張^ハ 千歳 早歌 星 以上
 神樂催馬樂ノ諷^ヒモノ句^ニ用^ヒテ神樂ノ諷^ヒ
 モノト慥ニ聞^ハハ冬季トス^ヘシ其心得ナク只名目
 ノミヲ出セル分ニテハ季ト成^ヘカラス

一 夕澄人^{スミ} 小夜澄人 神樂ヲ諷^フ人ヲ云^フ尤夜方^冬

ワケ

冬

クラヤミノ天ノ磐戸モ明ヌヘシ小夜澄入ノ詠フ神樂

一 御火燒ヲホタキ 八日 則子祭シ諸社行_レ之_ヲ 中ニ稻荷ノ

御火燒 嚴重シ京俗ホタケト云フ此日灯心ヲ賣
買フヲ子灯心ト云シ子祭ノ燈心ヲ燈セハ則諸
厄氣ヲ祓_ツテ家内無_ニ災禍ト云_ニ

一新玉津嶋ノ御火燒 十三日 當社ハ昔俊成卿勸

請_シ松原通鳥丸ノ西ニ有則俊成卿ノ宅地ノ
跡シ今云_フ松原ハ本五条通シ故ニ五條ノ三位ト云_シ

一空也忌 十三日 今日ヨリ四十八夜 鉢鼓ハチタケ行ニ入ル

抑鉢鼓ト云モノ京師ヨリニ有テ他取ニナシ依テ其
因縁略_ラ記_ス之_ヲ 昔空也上人貴船ニ閑居ノ時每
夜庵室ニ鹿来リ鳴ク其声閑寂ニシテ益觀念
三昧ヲ進_ム或夜不來上人不審明日平ノ負盛
来リ昨日此山ニ狩_レテ鹿ヲ得_ルト上人負盛ニ旨趣_ヲ
語テ大_キ歎惜_シ其皮ヲ乞_テ求_ルトシ角ヲ杖ノ頭ニ
付テ吊_ヒ之遺愛ス負盛殺_セ廉_ヲコトヲ深ク悔テ利
髮染衣メ上人ノ弟子ト成_ル今洛西極樂院空也寺ノ
十八家ノ鉢鼓ト称スハ皆負盛ノ末裔ニシテ平民_ニ
妻帯俗ニノ著スル取ノ衣鉢ハ則負盛ノ狩衣
遺風シトソ玄冬ノ終夜浴外七取ノ茶毗取_ヲ
廻リ念佛修行ス其唱_エ詠_フ文句ハ則空也上

人ノ作ニシテ賛佛章也

一 太師講 廿四日 天台大師ノ御忌也 比叡山三井寺其外台家皆行之ヲ 庶民家ニ小豆粥ヲ焼テ食之ヲ 近江ノ國中殊ニコレヲ嚴ニス

一 御祭 廿七日 春日若宮ノ御神事也 年中當社祭禮多キ中ニ此御神事甚々嚴重也 每例勅使アリ人皇七十五代崇徳天皇保延二年ニ始ル神贊ニ雉子千二百五十六羽 兔百三十四耳 狸百四十 二足備之ヲ流鏑馬アリ 伶人ノ舞百廿番相撲十番 細男ノ舞田樂ノ曲アリ 翌廿八日猿樂アリ 春日後日ノ能ト云是也

一 宇賀祭 廿日 九条東洞院ニ社アリ則宇賀ト稱ス

一 山ノ神祭 社京師ノ辺土取ニ有ヘシ其中ニ丹波ニ越ル唐櫃越ニ山神ノ社古松有リ山靈也或ハ大山祇命トソ

一 雪ジミキ 時雨ニ雪風ノ交リ降ルル風躰降物勿論シ 沫雪ト云モノ歌ニハ大方春ニヨメリ俳諧モ句ニヨツテ可定

一 氷柱 氷箸 軒ニ長ク垂ルヲ垂氷ト云則栗ノ

氷レ俗銀竹ノ字ツラト讀出取イブカレ
李白詩ニ白雨映寒山ニ森ニトノ似タリ銀竹ニト云
是雨シツラニアラス近來銀竹ト音ニテ句ニスル輩
アリ不可シ他ニ向ツテハズ蕉門作者ハ不可為之ヲ

一 太山榕 ミヤニシキニ 葉似テ榕ニコワレ四月細白花ヲ開キ秋
末其子紅シ仙靈ノ類シ十一月出スハ不得心シ

一 虎耳草 ユキノシタ 一名キジン草花ハ四月シ雪ノ下ト云
名ニツイテ冬季トスルヤ

一 鷹 アライ 秋小鷹ノ胚ニ畧記シ侍レトモ委事又爰ニ

記ス 小鷹秋只鷹ト云イ鷹狩ト云時ハ冬シ 箸
鷹タカト云フハ鷹ノ椋名シ鷹ヲ鳥屋ニ籠ムニモ又
出スニモ聖ヲ會ニ用イタルツ麻サカ売ノ箸ヲ小炬トシ
其明ヲ以テ出レ入ル是鷹近ノ故實シ依テ九テ
鷹ヲ箸鷹ト称スアカケノ鷹トハ雛ヲ云ナト
ノ説アレトモ非シトソア細掛ノ鷹シ細ニテ取ラ云シ
細掛ノ事前卷ノ鷹打ト云取ニ季記ス 大鷹ハ
日本ニ生セス朝鮮ヨリ來ル其ノ末ヨリ毛落テ冬
至リ新毛生ヒトナフ其間ヲ窠トヤ宿鷹ト云雛ヲ
取テヤ育ナフフ巢鷹ト云フ細掛ア巢鷹ノ二種ハ句ニ
依テ秋又冬シ當年生レテ山ニ育ツモノヲ黃鷹ワカ
ト云其色黃シ是ワタリ鷹及和ノ小鷹トモアリ

是モ冬シモヲカユルヲ鶴ト云ニ歳ヲ片鶴三歳
ヲ再鶴ト云シ山中ニ歷年ヲ山鶴ト云イ又野福
ト云是ハ雜シ巢鷹ヲ育テ每夜磬之酉ヨリ
子ニ至ルユレヲ夜居ト云凡廿日余世日ニシテ漸ク馴
經緒ヲ付ケ野ニ出テ放ツ呼ハ還リ来ルヲキ
ワタリト云狩言シトサケヒトダチヲ暮教州
鳥ノ落州カ州ヌスタツ鳥小田ノ狩詰煖鳥
皆狩言冬季シ煖鳥ト云ハ鶻ト云鷹ニノ三有
トソ此鷹小鳥一ツヲ捕エ夜中以之足ヲ煖
曉ニ至リユレ放ツ其小鳥東ニ行ケハ其日東ニ行テ
鳥ヲ不取ラ西ニ放レ行ケバ西ニ不行ト云凡鷹ハ
性強惡ニシテ友禽ヲ食フサレトモ天性義有テ
寢鳥ヲ不取胎モノヲ不取モシ胎鳥ヲ取トイ
ヘトモ不殺レテ放チヤルト云ニ

一 寒苦鳥

此鳥昔朝及中華朝鮮ニモナシ佛
經ニ説タリトソ印度ノ塚大雪山ニ鳥アリ名
付テ寒苦鳥ト云此鳥夜苦寒鳴テ曰寒
苦責身ヲ夜明ケ造巢ヲ明テ又鳴ク今日不知
死亦不知明日何故造巢安穩無常ノ
身ト此經ノコロシ後京極椽政良經
朝ナク雪ノ太山ニ鳴鳥ノ声ニ驚ク人ノナキ哉
以上師談ヲ以テ當座ニ書記タルミニテ再聞セス文
字言句ノ違可有見之其人其趣意ノミヲ可用

一 鮒ハゼ 江湖ノ産魚シ大ナルモノ漸一寸五分寸ニ不
 満モノ多シ頭ラ口大キク尾細シ煮食フニ之ラ佳ナキガク
 品ナラス冬月和介ワニ堅田ノ漁人多取之ラ賤
 民賞サイノモノノ饌トス 猿蓑集ニ 千律師
 時雨キヤ並ビカ子タルイサ、船

一 杜父魚カクブツ 是北国ニテ雪霰ノ降ル時取ル魚ト云リ
 續猿蓑集ニ カクブツヤ腹ヲ並ヘテ降霰
 此コト書ガキニ 河豚ノ大サニテ水上ニ浮ム越ノ川ニ
 有ル魚ト云ニ 又畿内江東ニ 杜父魚ト云ハ 婁
 ノ河魚シ大サ三四寸ヨリ五六寸ヲ大トス一名伏念
 魚人音ヲ聞テ砂泥ノ中へ首ヲサシ入其身ノ顯

ルハ不知形チ 鮒ハゼニ似テ班文アリ畿内ニテ子ニル 京俗
 ガンギボウスト云 江東ニテ子モ ガンギボト畧シ云リ 又一種
 褐ウスクワク首ラ子ニレヨリ少ト大ク 鮐フグノ至テ小ナルニ似タルモノ伏
 見ニテ川シマゼ西土ニテドンコ 江東ニテゴツヘイト云
 伊豆相模辺ニテ是シカクブツト云リトソ則同種
 類ニレテ其ノ河魚シ川鮒ハゼノ類シ 鮒ハゼニ黑白アフラ減
 鮒ハゼ有ルカ如レ是畿内ノ杜父魚シ 按ルニ北国ノカク
 ブツチ 杜父魚トフキヨニ似タルヲ以テ其文字ヲ附會ス
 モノカ又南北水土ノ性異ニノ其出ル節モ違ヒ其
 形チモ大小アリトモニ 杜父魚ナルカ

一 雪車ソリ 雪船シ深雪ノ時旅人及荷物ヲ載テ

雪中ツナスキノ押引カキキシ網貫ツナスキ扱カキキト云ハトモニ雪沓ツナスキシ

十二月

一 大神祭カミ

上卯ノ日

和列三輪大明神ノ祭 三輪ハ

大己貴尊オホナムチノノ神靈カミシ

此山コノヤマヲ元もとト見室ミムロト称なづセシガ

此御神ノ活玉依姫イハヒメニカヨヒ玉タマヒテモスツ衣ヒラカ間マニ糸イト針ハネ

ツツケ其糸イトノ三ツケ繫ツケノヨリタリシヨリ見室ミムロヲ改カ

三輪山ト云トナシナシ舊事本紀ニミエ侍リ此御祭ハ

負觀年中ニ始ルトソ

一 天智天皇ノ御国忌ミゴキ

三日

江列志賀郡崇福寺ニ

テ行ユク之ノヲ天智帝近江ノ国ニ都ミヤヲ開ヒキ玉タマヲ時先求トキサキ

勝地カチヲ一區ノ大伽藍ダイカランヲ建立ケンリツシ玉タマヲ是崇福寺

今ノ志賀寺ニ天智帝ハ中興ノ聖主ニテ御座ニ
依テ御国忌未代ニモ廢スルコトナシ大祖ノ廟トモ
申ヘキニヤ天皇道江国大津ノ宮ニ崩シ玉フ又
相傳フ山階ニ幸シ玉ヒ人不知登リ天ニ玉フ山ニ御啓
ヲ留ム則其取フ御陵トス今山階ノ山上ニ有
下ノ原野ヲ御廟野ト云イ里ヲ御陵村ト号ス

一 温糟粥 八日 釈尊此曉明星ヲ見テ成道シ玉フ
朝タナレハ禪家ニハ夜中座禪シ曉ニ粥ヲ煮テ
佛ニ供シ我モ食之ヲ臘ハノ粥ト云是也

一 御躰ノ御白奏 十日 神祇官奏之ヲ玉躰ニ御慎ニ
アラシ事ヲ白イ奏シ上ルシ白鳳四年ニ始ルト云ニ

一月次ノ祭 十一日 京師ノ諸社ニ御幣ヲ進セラルルシ
弘仁年中ヨリ始ルトソ六月ト十二月必行故ニ月次
ト云 毎月ト云コノ口ニハアラスト云ニ

一 荷前ノ定 十三日 是ハ荷前ノ御使トテ吉日ヲ選ニテ
十陵八墓ニ勅使シツカハサル其役ヲ今日定メラ
ル、シ云シ是朝賀ノ御為シ江次才ニ十陵トハ
天智天皇ノ山階ノ陵 光仁天皇ノ田原ノ陵 和列
桓武天皇ノ柏原ノ陵 稻荷 南野 崇道天皇ノ八嶋ノ陵 和列
仁明天皇ノ深州ノ陵 城列 光孝天皇ノ鳴滝ノ陵 城列

醍醐天皇ノ醍醐寺後城列 皇太后宮隱子ノ宇治陵城列

皇太后宮安子ノ中宇治陵日 皇太后宮茂子今宇治陵日

以上等 又其年ニヨツテ此陵ノ内易ルコト有ト云説アリ

八墓ト云ハ

大職冠鎌足公ノ塔ノ峯ヲハシメ忠仁公 仲野親王

葛野ノ當宗ノ社 宇多帝ノ外祖父シ 昭宣公

小野ノ左大臣 同宮道公 宇治ノ内親王等ノ墓

取エ幣帛ヲ進ラセ玉フシ荷前ノ使ト云シ 荷ノ

字ヲノト唱フル公事根源ノ讀クセシ

一 正月ノ事始メ 十三日 正月ノ公事ヲ今日定メ之

ナリ是モ則今月ノ行事シ

一 鵲巢ヲ名初ル 小寒ノ候十二月ノ節シ 雞ツルミス

大寒ノ候 十二月ノ中 禮記月令ニ出

一 土牛童子ノ像ヲ立 大寒ノ日 夜半ニ陰陽師禁庭

ノ十二門ニ立之ヲ 天下疫氣ヲ避ル為シ

陽明門 待賢門ニハ青色ノ土牛 美福門 朱雀門ニハ

赤色 談天門 薄壁門ニハ白色 安嘉門 偉鑿門ニハ

黒色 郁芳 皇嘉 殷富 達知ノ四門ニハ

黄色ノ土牛ヲ立 慶雲二年ニ始ルト云ニ

一 着駄ノ政 チマクダ 檢非違使以下ノ官人京師ノ法ヲ糾

行フヲ云シ 駄ハ アレカ子 鉗シ 犯罪ノ徒ヲ夕、ス政ナルニ

依テ着駢ト号トソ

一内侍所ノ御神樂 吉日ヲ選ヒ主上内侍所ニ幸成テ

御拜ノ内祝アリ神樂ノ役人御殿ノ前ニ蹲踞シ

笛ヒチリキ箏ヒチリキ和琴 調シラガ之ヲ燎ヒキ採物トリモノ韓神コリシ薦枕

千歳 早歌 星 朝倉 其駒 ナントノ神樂歌

奏ス之ヲコトニヨツテ主上自ラ星詠ハセ玉ヒ或ハ御笛

遊ハサル然ル時ハ弦管皆公卿勤ム之ヲ抑以御

神樂ハ神代ヨリノ縁起ニシテ甚タ嚴重ノ事ニ

役人ニ皆御酒録ヲ賜フトソ

一最勝寺ノ灌頂 十五日 白川ニ有リ今ハ照高院御

門跡御寺務シト云ニ

一御佛名

十九日ヨリ
廿一日ニ至

被カクケ綿

栢梨カヤナレ

勸カマシ盃

仁壽殿ノ御

本尊シ御帳ノ内ニ掛ラレテ香華ヲ備エ導師三

世ノ佛号ツ唱フ是諸民六根ノ罪ヲ滅ノ現當

安寧ノ祈禱シトソ宝龜五年ニ始メ行ハ之ヲ昔ハ

三ヶ日ノ間諸國殺生ヲ禁セシメ玉フ初夜中

夜後夜ニ導師カワル各綿ヲ賜フ藏人勤ム

之ヲ導師ノ肩ニカツクル故ニ被綿ト云シ栢梨カヤナレ

勸カマシ盃ト云ハ佛名ノ間御酒ヲ勸カマシ其酒ヲ栢梨カヤナレ

栢梨ノ庄ヨリ毎例ニ献ス之ヲ栢梨カヤナレノケンハイト

讀ム習ヒシ今世洛西植ノ尾山ニテモ佛名ツ行ノ

一大徳寺ノ閑山忌 廿二日 紫野龍宝山大徳寺ノ閑
山大燈国師ノ忌也

一衣配リ 正月ノ料ノ衣ヲ子孫親族ノモトニ配リ 貶ル
玉ノ事 源氏物語ナントニ取ミニエタリ

一節季候 ウハラ 節季候ハ諸国アリ ウハラト云
ハ京師ニノミアリテ他取ニナシ 節季候ノ
女ハシ 婆ハ等ハ也

一策和田鯉取 常陸国ノ江ニ 寒中鯉ヲ多ク取テ
江戸ニ出レ市ニ販ル 貢物ニハアラヌ

一八目鱧取 是四五寸五六寸ノ細クナギ両眼ニ目ノ形ナ
ナルモノハ九アリ 河州ノ檀原ト云取ノ川ニテ 寒中
多ク取テ之ヲホ養フトシテ京師ニ出ストソ 痔ノ藥ニ
又八目鱧二三尾 煮湯ニ節分ノ夜小兒ノ遍身七
竅悉ク 能ク洗ヒ其ナニ勝ヲイトハス包ニ臥サレハ
必痘瘡ヲ免ル 其驗如神ト云ニ

一大原ノ雜喉寐 節分ノ夜大原ノ里ノ男女シ生ル土神ノ
拜殿ニ通夜ガコ子スト云イ傳フ 今ハコノ事
絶ヘテナシ

一三冬盡ル 冬三旬尽ル 春盡ル 秋盡ル 三月

畫 九月畫ト云カ如シ

鎌倉右大臣

新勅選 三冬ツキ春シ来スハ青柳ノ葛城山ニ霞タナヒク

一 早咲 春咲モノ、寒中ニハヤ開ラズシ 早咲トガリ
レテ梅ニ決スト云 説ハ非シ

一 孟宗竹 是鳳凰竹トソ葉細ク能ク繁茂ス竹モ
細ク箭筈ノ如シ冬笋ヲ生ス依テ倍孟宗竹ト
呼フ笋ノ味苦クノ佳品ナラス九列ニ多ク有
トソ大和本州ニハ寒竹ト云モノ則コレト
記セリ 天和ノ頃ノ句ニ
雲中ノ笋 今ハ塩シタカ有モノシ

一 追儼 ナヤラフ 驅儼 日本紀ニ儼ノ字クニヤライ
讀セタリ 驅儼ハ疫鬼ヲ驅追フシ 爆竹ハ竹ヲ
燒火ノ声ニ爆ト訓ス卅日ノ夜因ミノ神社ニモ
追儼アリ 禁庭ニハ大舍人四目アル鬼面ヲ被
手ニ子ゴヲ持出 上卿以下ノ殿上人追之ヲ桃
ノ子ヲ矢ヲ以テ射之ヲ 仙花門ヨリ入テ滝口
ノ戸ニ出 御前ニ燈隙ナク灯レテ皆ナヤラフノ
聲シ發ス陰陽寮南殿ノ邊ニツキテ祭文ヲ
讀 紉ノ布衣着タル者世人ヲ卒テ内裏ノ
四門ヲ廻ル 是シ倭子ト云 慶雲二年十二月婚
行 此年天下大ニ疫シ万民多ク死ス依テ 行之ヲ
ト云、 年中行事歌合ニ

今ハタメ、一夜ニナリ又芦ノ矢ノイルカコトクニ年ノ暮スル
夫木集 九重ノ雲ノ上ヨリヤラフ籬ノ音ニ伴フフリ鼓哉
ハクチリ 爆竹ハ唐ニテ晦日ノ夜竹ヲ焼テ疫氣ヲ祓コト荆楚
 歳時記ニ出タリ本邦正月ノ左義長則是也

一 豆打 神箭楯サス 鰯ノ頭サス 是皆庶民ノ追難シヤチ

昔ハ鰯ノ頭ニハアラストソ貫之ノ土佐日記ニ
 ケフハ都ノミ思ヒヤラル小家ノ門ノ註連繩シククチ 鰯ノ
 頭ヒラキ挿サ ナントイカニトスヒアハルト書ケリ然
 レハ昔ハナヨシノ頭ヲサシ、ヲ中古ニ至リ 阜
 散ナル鰯ノ頭ニシカヘタリトミエタリ

一 齋宮ノ繪馬 廿日 伊勢ノ齋宮ニ諸民詣テ繪馬

ヲ掛ル其毛色ヲ見テ来年秋ノ農衆ヲ白トソ

一 五条ノ天神参 廿日 毎年除夜京師ノ貴賤群詣ノ

白木ノ餅及糍シヤキノ餅ヲ求歸リ是ヲ祝食スレ
 年中疫氣ヲ不受トソ此神社ハ廿彦名ノ命ニ
 三輪大明神ト此神ト兩神戮アヒカヲ玉ヒ天下万
 民ノ疾病ヲ祓除ニシマス神誓有トカヤ浮屠
 云藥師如来ノコトレ天下ノ民其神恩ヲ不蒙
 者ナレ可恭ウヤヒラ 可貴ウヤヒラシ京倍此社ヲ五条ノ天子
 云ハ菅家ノ神号ニ紛ル、ヲ以テ神ニ字清フミテ唱
 ヘキノ訛言シトソ

一 岡見スル 大晦日高キ星ニ登テ明年ノ氣ヲ見
陰陽師曆ト者ノスルコトト云ニ

一 年ノ終リ魂祭 昔ハ大晦日ニ五箇盆ト同ク魂祭
シケルニ徒然ト曰ク晦日ノ夜イトフ暗キニマツ
トモ燈シテ夜中人ノ門敲^{カタキ}走リアリキテ何事
ニカ有^{コト}トク敷ノ、シリテ足^ツ空ニ迷^マカ曉
方ヨリサスカニ音ナク成ヌルコソ年ノ名残モ心
ホソケレ亡^{ナキ}人ノ来ル夜トテ魂祭^マワガハ此頃都
ニハナキツ東^{アツ}ノ方ニハ猶スル事ニテ有^レコソ哀
ナリシカト云ニ兼好時代ニテ東国ニハ大晦日ノ夜
ノ聖具祭猶アリタリトミユ

一 星佛賣ル 元曉ニ天子四方ヲ拜シ玉ヒテ年災ヲ
核明年ノ本星ヲ唱ヘ祭ラセ玉フ 倣^{ナラ}之ニ都下
同ク祭^ル星ヲ其星ノ名及人^ミノ守護ニアタル
不動觀音大日等ノ佛名ヲ書付テ此日ノ夜
賣^ル之ヲアリキシシ 是ヲ星佛賣ルト云今ハ
京師ニモ絶テナシ

一 和布苾^カノ神事 廿日夜 豊前国隼部^{ハヤトモ}ノ社ノ神事ニ
丑ノ刻ニ神官海中ニ入テ和布ヲ苾取テ供^ス之ノ
隼部^{ハヤトモ}ノ社祭神 火蘭降ノ尊一座ト云ニ小原
御幸及和布苾ノ謡ニ長門ノ国隼部ノ浦ト
去リ往古中国ト九列ト續^{ツキ}ニテ切渡ナク隼部

神社長門豊前ノ間ニ有^ル中古海波ノ變
ヨツテ一里余ノ切渡ト成^ル今長門ノ方ハ下
關ト云赤同ノ關^ニ豊前ノ方ハ小倉^ニ集部^ハ社^ニ
豊前ニ属ス此夜ノ神事赤同集部双方ヨリ
海中ニ入テ行^ク之^ツトソ

一除夜 大晦日ノ夜^ニ除夜ト云^ハ一年ノ善惡吉
凶皆除^クト云義^ニ

箕籬輪中終

